

257
186

東京女子入學試驗問題集
高等師範學校

東京 高等女子學會發行

4Y 71

259-186

緒言

一本書ハ東京女子高等師範學校本科(文科理科技藝科)若クハ各種ノ專修科入學志望者ノ爲メニ研究ノ指針受験ノ資料タラシメントスル目的ヲ以テ同校ノ許可ヲ得テ編纂シタルモノナリ

一本書ノ内容ハ明治二十九年以降同四十一年ニ至ル既往十三年間ニ於ケル東京高等師範學校本科ヲ主トシ各種ノ專修科及選科ノ入學試験問題ヲ編纂シタルモノナリ

一當會嚮ニ本書ヲ發行シテ同校人學志望者ニ裨益スル處多大ナリシコトハ敢テ誇稱ニアラズ頃日再版ヲ促スノ聲各地ヨリ來ル依テ茲ニ増訂シテ上梓スルコト、セリ

明治四十一年十月

編者

識

東京女子高等師範學校



女子高等師範學校入學試験問題集

目次

(一) 本科入學試験問題	一
(二) 専修科入學試験問題	一三一
(一) 家事専修科入學試験問題	一三一
(二) 國語漢文専修科入學試験問題	一四六
(三) 地理歴史専修科入學試験問題	一五三
(四) 國語體操専修科入學試験問題	一六八
(五) 數學物理化學専修科入學試験問題	一七六
(三) 選科入學試験問題	一八一

女子高等師範學校入學試験問題集

一、本科入學試験問題

明治二十九年入學試験

國語科 (文法、解釋) (二時間)

第一 左の文字に國訓を附せよ

稗 苗 報 踊 前 末 救 效 竿 數

第二 にとへ、にをとの差別如何

第三 次の文に於て○點を附したる動詞の自他を説明せよ

(イ) 雨ふれば河の水も増す故に人夫を増して。築堤工事を急かせたり

女子高等師範學校入學試験問題集

一 本科入學試験問題

明治二十九年入學試験

國語科

(文法、解釋)

(二時間)

第一 左の文字に國訓を附せよ

種 苗 報 障 前 末 救 救 竿 數

第二 にとへ、にをとをこの差別如何

第三 次の文に於て○點を附したる動詞の自他を説明せよ

(イ) 雨ふれば河の水も増す故に人夫を増して築堤工事を急かせたり

(口)道を行きながら花を見る

第四 勢ある者は貪欲深く獨身なる者は輕ろしめらる實あれば懼れ多く賚しければ歎き切なり人を頼めば身人の奴となり人を羽でくめば心恩愛につかはる世に随へば身苦し又随はねば狂せるに似たりいづれの處をしめいかなる業をしてか暫も此身をやどし玉ゆらも心を慰むべき

第五 この泊の濱には種々のうるはしき貝石など多かりかゝればたゞ昔の人をのみこひつゝ舟なる人のよめる

よする浪うちもよせなんわがこふる人忘れ貝おりてひろはんといへれば或人堪へずして舟の心やりによめる
忘れ貝拾ひしもせし白玉をこふるをだにもかたみとおもはん
となんいへる女兒の爲には親をさなくなりぬべし玉ならずもあり

けんをど人はいはんやされどもしにし子顔よかりさといふやうも
あり

國語科

(作文)

(二時間)

第一 水

平易なる詞を以て作るべし

第二 借用せし書籍を返す文

普通體に倣ふべし

漢文科

(二時間)

每字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 且王者之不_レ作未_レ有_下疏_ニ於此時_ニ者也民之憔悴於虐政_ニ未_レ有_下甚_ニ於此時_ニ

者也飢者易爲食渴者易爲飲孔子曰德之流行速於置郵而傳命當今之時萬乘之國行仁政民之悅之猶解倒懸也

第二 兄弟者分形連氣之人也方其幼也父母左提右挈前襟後裾食則同案衣則傳服學則連業遊則共方雖有悖亂之人不能不相愛也及其壯也各妻其妻各子其子雖有篤厚之人不能不少衰也姊妹之比兄弟則疎薄矣今使疎薄之人而節量親厚之恩猶方底而圓蓋必不合矣

歴史科

(日本歴史)

(二時間)

- 第一 大臣大連ハ何時定置セラレタル者ナルカ又其ノ朝權ヲ擅ニセ
ルハ何ノ因由ニ本ヅケルカ
- 第二 大化ノ改新制度ハ封建ヲ郡縣トナシタル者ナリト謂フ如何ナル改革ヲ指シテ然斷定スルカ

- 第三 豪族トハ如何ナル者ゾ其發生シタル因由ハ如何
- 第四 足利時代に沸亂の止まざりしは何故なるか
- 第五 徳川幕府が天下の治平を維持したる政略は如何

算術科

(三時間)

- 第一 乘法トハ如何ナルモノナルカ
- 第二 或數ガ素數(單純數トモ云フ)ナリヤ否ヤヲ知ル方法並ニ其ノ理由ヲ記セ
- 第三 <16>ヲ第五小數位マデ算出セヨ
- 第四 我が銀貨壹圓ニ付キロンドン參着ガ二志一片四分ノ三ナルト
キハ七百五十八磅ハ我が銀貨何圓ナルカ
- 第五 或人金若干ヲ若干ノ年利率ニテ貸附ケシガ七ヶ月ノ終リニ計
算スレバ元利合計ハ金貳百九十四圓貳十五錢ト成リ十五ヶ月ノ終

リニ計算スレバ金三百十六圓二十五錢ト成ルト云フ由テ元金ト利
率トヲ求ム

(注意)第三問ニ就キテハ運算ノ順序ヲ明カニスベク又第四第五ノ
二問ニ就キテハ解法解式運算並ニ答ヲ明記スベシ

明治三十年入學試験

國語科

(二時間)

文法

第一 左の漢字に國訓を施せ

尾張 遠江 操 水 交 基 葵 贊 藍鼠(染色)
強飯

第二 どといふ助辭のあらゆる意義を列舉せよ

第三 次の文章に於けるこそその結び如何

重仁こそ立てらるべきに非文非武の四宮に超えられけるこそ悔し
ども悔しきなり

解釋

第一 人臣としては君を貴ひ民を憐み天にせくゝまり地にぬきあし
し日月の照すを仰きても心の黒くして光に當らざらん事をおち雨
露の施すをみても身の正しからずして恵にもれんことを願るべし
朝夕に長田狭田の稻の種をくふも皇恩なり晝夜生井榮井の水のな
かれをのひも神徳なりこれを思ひも入れすあるに任せて欲をほし
きまゝにし私を先として公を忘るゝ心あるならばよに久しき理り
侍らし

第二 清少納言は天曆の御時梨つぼの歌仙清原元輔のむすめにてその家のかせふきつたへたりけるうへ心さま優にてをりにつけたるふるまひいみじきことおほかりけり

右二題は線を引ける所を解釋すべし

國語科 (作文)

(二時間)

第一 船

普通文

第二 染物を頼む文

郵便はかきの體

漢文科

(三時間)

每字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 禹稷當平世三過其門而不入孔子賢之顔子當亂世居於陋巷一簞食一瓢飲人不堪其憂顔子不改其樂孔子賢之孟子曰禹稷顔回同道禹稷顔子易地則皆然今有同室之人鬪者救之雖被髮纓冠而救之可也鄉隣有鬪者被髮纓冠而往救之則惑也雖閉戶可也
第二 楚大發兵加齊齊使淳于髡請救于趙齋金百斤車馬十駟髡仰天大笑王曰先生少之乎髡曰臣見道傍有禳田者操一豚蹄酒一壺祝曰甌窶溝箒汗邪滿車五穀蕃熟穰穰滿家臣見其所持者狹所欲者奢故笑之

歴史科 (日本歴史)

(二時間)

第一 帝國建國ノ始末ヲ略記セヨ

- 第二 大化改新政治ノ始末ヲ陳ヨ
- 第三 平氏ノ興亡ヲ簡單ニ叙セヨ
- 第四 徳川八代將軍吉宗ノ事業中足高ノ法見取定免ノ制ナド謂ヘル
ハ如何ナルコトゾ
- 第五 明治王政維新ノ遠因近因ヲ示セ

算術科

(三時間)

- 第一 分數トハ如何ナルモノナリヤ
- 第二 甲量ガ乙量ニ對シテ逆比ニ變化スルヤ否ヤヲ知ル方法ニ就キ
テ記スベシ
- 第三 鹹水アリ一石ニ付百分ノ二半ノ食鹽ヲ含ム今之ヲ百分ノ二十
ノ食鹽ヲ含ムモノニ爲サンチム如何スベキヤ

- 第四 我が帝國ノ地積凡ソ二万七千三百方里ヲ方^キ料^イ數^トニ改算スベシ
- 第五 左式ノ値ヲ算出スベシ

$$72 + \left(8 + \frac{3}{5 + \frac{1}{4}} \right)$$

(注意) 第三第四ノ二問ニ就キテハ解法解式運算並ニ答ヲ明
記シ第五問ニ就キテハ運算ノ順序ヲ明示スベシ

明治三十一年入學試験

國語科

(二時間)

- 第一 左の文字に假名を付けよ
- 氷 水 藤 俵 息 驕 躑躅 田舎
- 周防 營業

第二 をとがどのあらゆる用法を示せ

第三 左の文の誤謬を説明せよ

(イ) 獨參湯をなんすしむべしといふ

(ロ) 守りの者の捕えらて繩を以て縛しなんとす

第四 左の文を解釋すべし

(イ) 言行は君子の樞機なりといへりあからさまにも君をないかし
るにし人におこる事はあるべからぬ事にこそ堅き氷は霜を履
むより至る習ひなれば亂臣賊子といふものは其はしめ心言葉
をつししまさるより出てくるなり

(ロ) 西行法師男なりける時かなしくしける女の三つ四つばかりな
りけるか重く煩ひてかきりなりける頃院の北面の者とも弓射
て遊ひあへりけるにいさなはれて心ならずのしり暮しける

に郎等男の走りて耳に物をさしやきければ心しらぬ人は何と
も思ひいれす西住法師いまた男にて源次兵衛尉とてありける
に目を見合せてこの事こそ既にとうちいひて人にもしらせす
さりけなく聊の氣色も變らて居たりしありかたき心なりと
西住後に人に語りける

國語科 (作文)

(二時間)

第一 書籍

普通文にて書くべし

第二 左の文を消息文に譯すべし

かしてまりて承りぬのたまはせたるやうに物ごと改りぬる程にと
かくうちまぎれ侍りて久しう聞ねさせず侍り此頃上總とかへ下ら

せ給へるよしを御文にてなん承りつる珍しく對面せさせ給ひていかにうれしうおぼしつらん平かに歸らせ給ひけるをなん悦ひ侍る其御便りにとて紫海苔賜はせたる淺草の淺からずなん老いたる父は平かに侍る御言傳は言ひ聞かせて侍りぬ道遠く年隔りぬるを忘れずとはせ給へるをぞ深く悦び侍る聞えさせまほしき事多く侍れど今又便り侍らん時とてとゞめ侍りぬあなかしこ

漢文科

(二時間)

每字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 衛靈公與夫人一夜坐聞車聲隣々至闕而止過闕復有聲公問夫人曰知此謂誰夫人曰此蘧伯玉也公曰何以知之夫人曰妾聞禮下公門式路馬所以廣敬也夫忠臣與孝子不為昭々信節不為冥々情

行

第二 子思言苟變可將衛侯曰變嘗為吏賦於民食人二鷄子故弗用子思曰聖人用之猶匠之用木取其所長棄其所短故杞梓連抱而有數尺之朽良工不棄今君處戰國之世而以二卵棄千城之將此不可使聞於隣國也

歴史科

(三時間)

- 第一 大化改新ノ要點ヲ述ヘヨ
- 第二 平治ノ亂ノ原因如何
- 第三 山内一豊ノ妻ト細川忠興ノ妻トノ貞烈ヲ比セヨ
- 第四 秦始皇ノ時ノ著シキ制度上ノ變遷ハ如何
- 第五 豊臣秀吉ノ朝鮮征伐ハ支那ノ何朝何帝ノ時ニシテ其支那ニ及

ポシタル影響如何

第六 西羅馬ノ亡滅シテヨリ東羅馬ハ猶幾年ボト如何ニシテ持續シ
タリシカ

第七 クリミア戦争ノ顛末ヲ記スベシ

數學科

(三時間)

第一 分數ト小數トノ同異ノ點ヲ列記スベシ

第二 二數ノ最大公約數ヲ發見スル方法並ニ其理由ヲ問フ

第三 地球ノ子午線ノ長サハ四千万メートルナリ之ヲ里數ニ改算ス
ベシ

第四 貿易商アリ三ヶ月後ニ仕拂フベキ約束ニテ金三千五百圓ノ生
糸ヲ買ヒ入レシガ荷主ノ都合ニ依リテ内金八百圓ヲ現金ニ仕拂ヒ

タリ由テ双方ニ損益ナカラシムニハ殘金ヲ期日後何月ニ仕拂フベキ
ヤ

第五 金八百七十五圓ヲ二ケ年間貸附スルニ年利五分四厘ノ重利ニ
依ルト年利六分ノ單利ニ依ルト何レガ利ナルカ

第六 或角ノ二等分線上ニ於ケル凡テノ點ハ此角ノ兩邊ヨリ等距離
ニアリ此ノ證ヲ求ム

第七 同一平面内ニアルモ同一直線上ニアラザル三ツノ點ヲ通過ス
ル圓周ヲ作ル方法並ニ其理由ヲ記スベシ

(注意) 第三第四第五ノ三問ニ就キテハ解算式運算答等ヲ明記ス
ベシ

理科

(三時間)

- 第一 完全葉ノ部分ト葉ノ作用トヲ記セ
 - 第二 植物ノ呼吸作用トハ如何ナルモノゾ
 - 第三 有脊動物ト無脊動物ノ區別上主要ナル諸點ヲ説示セヨ
 - 第四 人ノ心臓ノ構造及血液循環ノ大要ヲ記セ
 - 第五 輕氣球ノ空氣中ニ昇騰スル理由如何
 - 第六 夏季ハ空氣中ノ温度高クシテ冬季ハ之ニ反ス其理由如何
 - 第七 左記(甲)ノ各物質ヲ空氣中ニ放置シ(乙)ノ各物質ニ硫酸ヲ注グト
キ起ルベキ變化如何
- (甲) 鐵 生石灰 苛性加里 ソヂウム
結晶炭酸ソヂウム 鹽化カルシウム
- (乙) 亞鉛 消石灰 黑色酸化銅 苛性曹達
食鹽 硝石

明治三十二年入學試驗

國語科

(文科、理科)

(二時間)

文法

- 第一 左の漢字に國訓を施せ
敷 敷 治 堪 酸漿 聲色 水際 肥桶
烏帽子 一昨日
- 第二 左の文句に於けるあはましあはましものをの意義如何
花のさかりにあはまし
花のさかりにあはましものを
- 第三 左の文章に於ける誤謬の有無如何

二十七八年の戦役には我軍連戦連勝し清國遂に和を乞ひ土地を割かしめ償金を納めしむ

解釋

第一 春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ見えぬ香やはかくる、此歌を吟ずれば有徳之可掙の誠を感ずべし忘れては夢かどぞおもふ思ひきや雪ふみわけて君を見んとは此歌を吟ずれば君子不忘故舊の情を感ずべし武士の矢なみつくらふ籠手の上にあられたばしる奈須のしの原此歌を吟ずればその金革をしさねにするの志を感じて勇氣をすゝむべし

第二 月卿雲客

竹園椒房

仙洞御所

叙爵

物忌

物のけいとなまめかしくうつくしげなり さうざうしひすましめくめのわらは けちえんに赤き装束したり

國語科

(技藝科)

(二時間)

文法

第一 左の文字に國訓を附せよ

尾張

遠江

淡路

伯耆

甥

費

苗

轅

宿直

薰

第二 といふ助辭のあらゆる意義を列擧せよ

第三

火は消えぬと火ぞ消えぬとの意義の差別を説明せよ

解釋

第一 和泉式部保昌が妻にて丹後に下りける程に京に歌合ありけるに小式部内侍歌よみにとられてよみけるを定頼の中納言たはぶれに小式部内侍に丹後へつかはしける人は参りにたるやといひ入れ

て局の前を過ぎられけるを小式部内侍御簾より半いで、直衣の袖をひかへて

おほ江山いくのしみちの遠ければまだふみもみずあまのはしたてとよみかけけり思はずにあさましくてこはいかにとばかりいひてかへしにもおよばず袖をひきはなちてにげられにけり小式部これより歌よみの世におほわいでにけり

- 第二 (1) 北政所 (2) 凡帳 (3) 妻戸 (4) 節會 (5) おとこはき
- さいの宮の御せうどにおはします

國語科 (作文)(文科理科) (二時間)

- 第一 誠 普通文
- 第二 上棟を賀する文 書翰文

全 作文 (技藝科) (二時間)

- 第一 繪畫 普通文
- 第二 發足の途中より自宅へ送る文 書翰文

漢文科 (文科理科) (二時間)

每字讀方ノ音訓共ニ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 池田光政嘗進柑侍醫云寒露御冷菓非宜既而光政入後闈獨嘆殆哉殆哉嬪侍問其故光政舉醫語曰吾時欲云吾亦知之矣此言一出則誰諫我思之則今復慄慄也

第二 兄弟者分形連氣之人也方其幼也父母左提右挈前襟後裾食則同案衣則傳服學則連業遊則共方雖有悖亂之人不能不相愛也及其壯也各妻其妻各子其子雖有篤厚之人不能不少衰也

歴史科

(文科理科)

(三時間)

- 第一 聖徳太子が我國ノ開明上ニ裨益セラレシ諸點ヲ述ベヨ
- 第二 鎌倉幕府時代ノ有名ノ婦人二人ヲ擧ゲ且其ノ事蹟ノ概略ヲ記セ
- 第三 近世(江戸幕府時代)國學振興ノ由來ヲ問フ
- 第四 漢ノ武帝ト唐ノ太宗トノ事蹟ヲ比較セヨ
- 第五 羅馬大帝國建立ノ顛末ヲ記セ
- 第六 今世紀ニ於ケル世界文明進歩ノ概要ヲ述ベヨ

數學科

(文科理科)

(三時間)

- 第一 名數ト不名數トノ別ヲ詳ニスベシ

第二 分數ニ分數ヲ乘ズル方法並ニ其ノ理ヲ問フ

第三 一坪ハ六万四千八百二十七立方分ニ等シ一米突立方ハ幾坪ニ等シキヤ

第四 一晝夜ニ七分ノ遅差ヲ生ズル時計アリ今此ノ時計ガ午後二時四十三分ヲ指示スルトキ眞時ハ二時五十二分二十七秒ナリト然ラバ此ノ時計ヲ眞時ニ合セタラバ何時ナリシカ

第五 次ノ式ニ依リテ計算ヲ施シ答ヲ小數第五位マデ算出スベシ

$$\begin{array}{r} 1,18 \\ 0,152 \\ \hline 2,95 \end{array} \times 0,00125$$

第六 各種ノ三角形ヲ列擧シ其ノ特性ヲ記述スベシ

第七 二ツノ圓周ニ共通ナル切線ヲ作ル方法及ビ其ノ理由ヲ記述スベシ

(注意第三第四ノ二問ニ就キテハ解算式運算答等ヲ明記シ第五

問ニ就キハ運算ヲ明記スベシ

同

(技藝科)

(三時間)

- 第一 除法トハ如何ナルモノナリヤ
- 第二 分數減法ノ規則並ニ其ノ理由ヲ問フ
- 第三 或品物ヲ賣却セシニ四分ノ一ハ一割ノ利ヲ與ヘ三分ノ二ハ五分ノ利ヲ與ヘタリ然ラバ殘品ヲ何割ノ損或ハ益ニ賣ルトキハ全体ニテ五分ノ利ヲ得ルカ

第四 左式ニ依リテxノ値ヲ算出セヨ

$$x = \frac{3\frac{1}{15} + 2\frac{1}{10} - 4\frac{3}{20}}{3\frac{1}{15} - 2\frac{1}{10}} + \frac{2 + \frac{3}{8} + \frac{4}{16}}{3\frac{1}{15}}$$

第五 矩形ノ田地アリ間口ハ二町四十間ニシテ奥行ハ三町五十七間ナリ地積幾何ナルカ

第六 圓錐圓壩並ニ球トハ各々如何ナルモノナリヤ

第七 ニツノ四邊形ノ相等シキハ如何ナル場合ニアルカ

(注意) 第三問並ニ第五問ニ就キテハ解運算算式答等ヲ明記シ

第四問ニ就キハ運算ヲ明記スベシ

理科

(文科理科)

(三時間)

物理

第一 地球ノ中心ニ於テハ物体ニ重量ナカルベシト云フ其理如何

第二 「ゴツプ」ノ水中ニ入レタル匙又ハ洗手鉢中ニ置キタル柄杓ノ曲折スルガ如ク見ユルコトアリ其理如何

化學

第一 左ノ問題中其ノ一ヲ選ヒテ答ヘヨ

- (甲) 硝石ガ窒素及ビ酸素ヲ含ムコトヲ證明スル方如何
- (乙) 硫酸ガ硫黄及ビ酸素ヲ含ムコトヲ證明スル方如何
- (丙) 砂糖ガ炭素及ビ水素ヲ含ムコトヲ證明スル方如何
- 第二 鹽素(クロル)ヲ含メル化合物三種ヲ舉ゲ其ノ性質及ビ反應ヲ略

說セヨ

博物

- 第一 完全ニシテ不齊整不平等ナル花トハ如何ナル構造ノ花ナルカ
一ノ實例ヲ舉ゲテ之ヲ說示セヨ
- 第二 根ト莖トハ何ニ由リテ之ヲ區別スベキカ
- 第三 動物ノ呼吸トハ如何ナル生理作用ナルカ又水中ニ生活スル動物ハ如何ニシテ呼吸ヲ營ムカ
- 第四 人ノ食器中脂肪質ハ消化器中何處ニ於テ何種ノ消化液ニ由リ

テ變化セラルカ

同

(技藝科)

(三時間)

物理

- 第一 三秒時間墜落スル物体ハ大約幾何尺ノ高サヲ下ルヤ
- 第二 水ノ沸騰點ハ空氣壓力ニ如何ナル關係ヲ有スルヤ

化學

- 第一 左ノ物質ヲ空氣中ニ於テ燃燒スレバ如何ナル果成物ヲ生ズルカ
(1) 木炭 (2) 石油 (3) 硫黄 (4) 燐 (5) 鐵
- 第二 窒素ハ如何ニシテ動植鑛ノ三界ヲ巡行スルカ

博物

- 第一 單葉ト複葉ノ區別スベキ要點ヲ問フ
- 第二 顯花植物ノ根ハ專ラ如何ナル部分ヲ以テ水ヲ吸取スルカ
- 第三 昆蟲類ト蜘蛛類トノ相異ナル諸點ヲ問フ
- 第四 肺臟ト腎臟ハ機能上互ニ類似スル所アリソノ區別ハ何ニアルカ

裁縫科 (技藝科)

(三時間)

- 第一 幅九寸七分の縞地一反(二丈八尺七寸物)にて一ツ身並に四ツ身各表一枚の裁合せ方を圖解し寸法を附し及び其の積り方の算式を示せ
- 但し四ツ身は筒袖とす
- 第二 與ふるところの糸布を以て女袴の右片袖の雛形を丸袂になし

て縫ふべし

但し雛形の寸法は實物の二分の一とす

習字科 (技藝科)

(一時間)

- 第一 誠者天之道也
右楷行二様(一字方二寸位の大き)に認むべし
- 第二 身持やさしく心おとなしくさゞれ石の巖となりて苦のむすま
で繁昌して
右随意に認むべし

圖畫科 (技藝科)

(二時間)

毛筆畫

墨畫の花弁

右隨意に畫かしむ

明治三十三年入學試験

國語科

(文科理科技藝科共)

(二時間)

文法

- 第一 左の動詞の語尾の變化を示し且假名遣に誤謬あらはそを正せ
恨む 堪ゆ 報ふ 旅す
- 第二 今日といふ語を名詞にと副詞にと兩様に用ひ分けたる例を示せ
- 第三 左の文章に文法上の誤謬あらばそを正し且その理由を述べよ

某地に布設されたる電氣鐵道は最も新式に據れるなり

解釋

四條大納言(公任)月をろ恨あり出仕もしたまはず大納言辭退し申さ
むとせられけるに匡衡を招きて辭表を奉らむと思ふ間時の秀才齊
名以言等に誂へしむといへども猶心になはす貴殿ばかりを書き
ひらかれむと思ふといはれければ匡衡なまじひに受けとりて家に
歸りて愁歎の氣色あり時に妻赤染衛門何事ぞ尋ぬるにかゝる事
なり彼の輩は才學優長なり然るをそれに勝りて書きのべん事極め
て難しと答へければ赤染うち案じて彼の人のゆゑしく驕飾ある人な
り我が身の先祖やんごとなき者にてありなから沈淪の旨をかゝさ
るか早く此の旨をかくべしといふ匡衡彼の輩の草を見るに實に其
の趣なし尤も然るべしとて打立にいふは臣は五代の太政大臣の嫡

男なり曩祖忠仁公より以來といふより次第に數へあげて我が身の沈める由を書きて持ち行く所に感歎して悦べる氣色なりよつて之を用ひけり

同

(同前)

(二時間)

作文

時計を見ておもへることを

漢文科

(文科理科)

(二時間)

每字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 鹿馬身羊尾高脚而行速牡者有角夏至則解大如小馬黃質白斑牝者無角小而無斑毛孕六月而生子性能別良艸食則相呼行則同旅居

則環角外向以防害

第二 昏定晨省

下帷京師

多多益辨

口無擇言

交情膠漆

咬得菜根百事可作

歴史科

(文科理科)

(三時間)

第一 明治維新ノ大業ノ成リシ所以ヲ説明セヨ

第二 左記ノ人々ノ略傳ヲ記セ

赤染衛門 春日局

第三 我が國ト唐朝トノ關係ヲ問フ

第四 元朝ノ衰亡ノ速カナリシハ何故カ

第五 歐洲中世ノ十字軍ニ就キテ知ル所ヲ述ベヨ

第六 現世紀ニ於ケルドイツ帝國再興ノ次第ヲ記スベシ

數學科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

- 第一 乘法トハ如何ナルモノナリヤ
- 第二 二數ノ最小公倍數ヲ求ムル方法並ニ其理ヲ記述セヨ
- 第三 荷物回漕店ニ於テハ一立方尺ヲ一切ト云ヒ四十切ヲ一噸ト云フ今一噸ノ運賃ヲ二圓五十錢トスレバ長サ五尺二寸濶サ三尺四寸厚サ一尺九寸ノ荷物ノ運賃幾何ナルカ
- 第四 次ノ式ノ値ヲ算出セヨ

$$\left(\frac{1}{2} + \frac{2}{3} + \frac{3}{4} + \frac{4}{5}\right) + \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5}\right)$$
- 第五 整理公債額面千九百圓ヲ九十四圓ノ相場ニテ賣リ年八分ノ配當アル株券一株五十圓ヲ六十三圓五十二錢ノ相場ニテ買ヒ入ルルトキハ年収入ノ差如何

- 第六 地球ノ周圍ハ四万^{キロメートル}ナレバ北半球ノ水陸ノ割合ヲ三ト二トニスレバ南半球ノ水陸各ノ面積幾何ナルカ
- 第七 並行四邊形ノ對角線ハ其ノ中點ニ於テ相交ル此ノ證ヲ問フ
 (注意) 第四ニ就キテハ運算ヲ詳記シ第三第五及ヒ第六ニ就キテハ解法算式運算答ヲ明記スベシ

理科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

物理

- 第一 水ト鹽水トハ混合スレドモ水ト油トハ否ラザルノ理如何
 - 第二 寫眞器(暗箱)中ニ生ズル像ハ倒サマナルノ理如何
- 化學
- 第一 左ニ記スル諸元素ノ酸化物ヲ舉グベシ

水素 窒素 炭素 硫黄 磷

第二 燃燒ト呼吸トヲ比較セヨ

博物

第一 一輪ノ花ハ一本ノ枝ノ變体ナリトイフ何ニ依リテ之ヲ證スル

カ

第二 双子葉莖ト單子葉莖構造上ノ區別ヲ記セ

第三 節足動物ノ大部類ヲ指名シテ之ニ各々一ニノ實例ト節足ノ數

トヲ附記セヨ

第四 人体ノ中心臟ヲ中心トシテ血液ノ循環スル順序ヲ記セ

裁縫科

(技藝科)

(三時間)

第一 常幅一反(二丈八尺)ノ表地ヲ以テ男袴羽織ヲ裁ツニ仕立上リ寸

法袖丈ケ一尺四寸五分身丈ケ二尺六寸ニセハ其裏地幾尺ヲ要スル

カ

右裁方ノ圖解ニ名稱寸法ヲ記入シ及ビソノ積リ方ノ算式ヲ記セ

第二 與フル所ノ用布糸ニテ女袴ノ上前ヲ實物三分ノ一ノ寸法ニ縫

フベシ

但シふきノ寸法ハ實物ノ如クスベシ

習字科

(技藝科)

(二時間)

第一 以文會反

右楷行二体一字方二寸位ノ大サニ認ムベシ

第二 けふといへはもろこしまても行春をみやこにのみと思ひける

かな

右隨意ニ認ベシ

圖畫科

(技藝科)

(一時間)

毛筆畫

第一 墨畫ノ竹

壹葉

第二 墨畫ノ花卉

壹葉

右隨意ニ畫クベシ

明治三十四年入學試験

國語科

(文科理科技藝科共)

(二時間)

文法

第一 左の文字に訓讀の假名を附してその活用を示せ

終 倒 教 鑄 危

第二 左の句中圈點を附したる語はいかなる品詞に屬するか
い。か。で。善。友。に。交。ら。な。む。

第三 左の文中語法の誤を訂正せよ

汝は友を訪ふて何を話せしや

解釋

第一 嗚呼妙なるかな寫眞の術昔より和漢丹青に名を得たる者の筆
といへども千態万狀寸楮にをさめてかくまで繊緻なるを見ず誠に
非常の鏡面を以て有情の景象を貽すこと千古未發の奇觀といふべ
し

第二 六波羅の入道かしづき給ふ御女内に奉らむとてこゝらゐそぎ

給ひけり此の頃院の御子の御定にて参り給ふいといかめしきひびきにてけはひことにめでたく女房なともなのめなるなくねらびとのへられてあまたさぶらふ

同

(同)

(二時間)

作文

友の擇ふべき事を述べ

(右漢字交り普通文に記述すべし)

漢文科

(文科理科)

(三時間)

每字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 諸侯皆朝于江戶賜第邸于郭内商賈日益麁集坊肆年增都下方

四里屋舎鱗次櫛比至有土一舛金一舛之諺

第二 越王勾踐之伐吳客有獻醇酒一器王使人注江之上流使士卒飲其下流味不及加美而士卒戰自五也

第三 肉袒負荊 刎頸之交

歴史科

(同前)

(三時間)

第一 我ガ國武門政治ノ沿革ヲ略敘スベシ

第二 左記ノ人々ノ略傳ヲ問フ

伊勢大輔 貝原益軒

第三 清朝康熙帝ノ事業ヲ述ヘヨ

第四 歐洲中世末海上發見ノ影響如何

第五 ヲ非ンナ列國會議後ニ於ケルフランス國政治上ノ變遷ヲ簡

ニ述ベヨ

數學科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

- 第一 1. ヨリ小ナル數ヲ表示スルニ分數ヲ用フルト小數ヲ用フルトノ利害ヲ詳ニセヨ
- 第二 二數ノ積ヲ算出シタル後此積ガ正シキヤ否ヤヲ驗メス方法ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- 第三 八月後拂ノ手形ノ二百四十圓ニ對シ若干金ヲ拂ヒシヲ以テ殘金ハ更ニ六ヶ月ヲ經テ支拂フモ可ナリト云フ此若干金トハ幾圓ナルカ

第四 次ノ式ノ値ヲ算出セヨ

$$\left(\frac{1}{7} + \frac{5}{12} - \frac{1}{9} - \frac{1}{11}\right) + \left(\frac{17}{36} + \frac{9}{22}\right)$$

- 第五 パリーヨリリヨンマデノ上等流車賃ハ五十六フランクニシテ距離ハ五百六キロメートルナリ今八キロメートルヲ五哩トシ五フランクヲ二圓トスレバ一哩ニ付幾錢ノ賃金トナルカ
 - 第六 三角形ノ地面アリ其底邊ハ一千八百二十九米突ニシテ高サハ七百三十六米突ナリ此地面ノ廣サハ何町何反何畝何歩ナリヤ
 - 第七 與ヘラレタル半徑ノ圓周ヲ與ヘラレタル角ノ二ツノ邊ニ切スル様ニ作ル方法並ニ其理由ヲ問フ
- (注意) 第四ニ就キテハ運算ヲ詳記シ第三第五第六ニ就キテハ解法算式運算答ヲ明記スベシ

理科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

物理

第一 やまひこ(反響)ハ如何ナル場合ニ於テ聞キ得ベキヤ
第二 流動電氣ヲ生起スルニハ如何ナルモノヲ以テスルヤ

化學

第一 氷ハ二種ノ成分ヨリ成ルコトヲ証セヨ
第二 火焰ニ就テ次ノ諸問ニ答フベシ
(イ) 焰ノ生ズル理由
(ロ) 其光輝ノ有無ハ何ニヨルカ
(ハ) 焰ノ構造

博物

第一 如何ナル植物ニテモ曾テ自ラ實驗セル一花ノ圖ヲ描キテ之ニ其各部ノ名稱ヲ附記セヨ
第二 莖ト根トノ互ニ相異ナル諸點ヲ記セ
第三 血管系統及ビ神經系統ノ排置ニ關シテ高等動物ト下等動物ト

ハ如何ナル相違アルカ

第四 人ノ食管ニ注入セラル、消化液ノ種類及ビ各種ノ重ナル効用ヲ記セ

裁縫科

(技藝科)

(三時間)

第一 幅一尺二寸ノ縮緬ヲ以テ女服無垢一枚ヲ裁ツニ寸法ハ身ノ丈四尺トシ其他モ普通ニセバ用布ノ總丈幾許ヲ要スルカ(裏地ヲ省ク)右裁チ方ノ圖解ニ名稱寸法ヲ記シ及ビ其積リ方ノ算式ヲ示セ

第二 與フル所ノ布ト糸トヲ用弁テ男袷羽織ノ左ノ前身頃ヲ縫フベシ
右ノ寸法ハ實物二分ノ一トス

習字科 (技藝科)

(二時間)

第一 文行忠信

右楷行二体

第二 和歌の浦にしほみちくれはかたをなみあしへをさしてたつな
さわたる

圖畫科 (技藝科)

(二時間)

毛筆畫

第一 墨畫ノ梅

第二 墨畫ノ花卉

右二圖隨意ニ畫クベシ

明治三十五年入學試験

國語科

(文科理科技藝科共)

(二時間)

文法

第一 左の施線の部分につきて文法上の差異を説け

(イ) 啼く鶯の聲すなり

(ロ) 今これを説明するなり

(ハ) そこに人ありや

(ニ) あな、たのみなき人の心や

第二 左の文に誤あらば正せ

(イ) 此品に手を觸るるべからず

(ロ)かくと申せしかばそれにてよしと言はれし
(ハ)雪を戴く峰巒は雲表に聳へ藍を流る湖水は樹林の間へ隠見す

解釋

神功皇后韓國をことひけ給ひしより以來國大に開け民ますく、蕃
りては教化の道なくてわあらぬ事なれば儒佛の教を採用し給へる
も己む事を得ぬ理なりざるに儒佛の道開けずば今もなほ上代の儘
ならむなどうれたむもさることながら時勢は四時の遷るが如し夏
日の葛冬夜の裘いかでか一偏を固執せむ純一無欲の小兒をよしと
して名利の念熾なる若人を教へんとすども其の勞やいたづらなら
む

同

(同前)

(二時間)

作文

將來ノ希望ト覺悟トヲ述ス

(注意) 先古ニ比シテ明治ノ御代ニ生レタル女子ノ幸福ヲ略説
シ次ニ己ガ將來ノ希望ト覺悟トヲ述ブベシ

漢文科

(文科理科)

(二時間)

(注意) 每字讀方ノ音訓ニ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋スベシ

第一 清少納言老而家居屋宇甚陋郎署年少見其貧窶憫笑之少納言自
簾中呼曰不聞有駿馬骨者哉笑者慚而去

第二 趙王倫矯詔勒兵入宮逼晉帝禪位黨與皆爲鄉相奴卒亦加爵位
每朝會貂蟬盈坐時人語曰貂不足狗尾續

第三 具曰予聖誰知鳥之雌雄

肉袒負荆

輿櫬銜璧

歴史科

(文科理科)

(三時間)

- 第一 延喜ノ御世ノ有様ニツキテ知レル所ヲ述ブベシ
- 第二 左記ノ人々ノ事蹟ヲ記セ

松下禪尼

林子平

- 第三 明治四年ニ藩ヲ廢シテ縣ヲ置カレタル始末ノ大要ヲ問フ
- 第四 漢孝武帝ノ事業ヲ記セ
- 第五 清露間ニ締結セラレタル尼布楚^{ネルチ}條約ノ要點ヲ記セ
- 第六 支那史ニアル左ノ地名ハ今日ノ何處ニ當ルヤ

洛陽

蜀

- 第七 十九世紀ノ初歐洲列國間ニ生ジタル神聖同盟ノ性質ヲ説明セヨ
- 第八 米國ニ於ケル南北戦争ノ始末ヲ記セ
- 第九 左ノ人名ニ關スル事蹟ヲ略記セヨ
マルチン、ルーテル
ハンニバル

數學科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

- 第一 分母ノ相異レル分數ヲ加フルニ之ヲ通分スル理由如何
- 第二 英國金貨幣壹磅ハ純金ノ目方七三二ニグラムナリ之ヲ換算ス
レバ我幾圓トナルカ
- 第三 左式ノ結果ヲ小數ニ直セ

$$\left(11\frac{5}{8} - 3\frac{7}{12}\right) \times 1\frac{5}{24}$$

$$17\frac{3}{8} + 2\frac{1}{4}$$

第四 旅人アリ十五日間ニ百八十七里半ヲ行ク割合ニテ八十里ヲ六日ト四時間ニテ歩メリト云フ此人毎日何時間ツ、歩ミタルカ

第五 壹圓未滿ノ元金ニハ利息ヲ附セサルコト、シテ年利六分元金二百六十六圓ノ三年間ニ生ズル複利ヲ求メヨ

第六 一ツノ角ヲ二等分スル直線上ノ何レノ點ヲ取ルモニツノ邊ヨリ相等シキ距離ニアルコトヲ證明セヨ

第七 梯形ノ平行ナル二邊ト高サトヲ與ヘテ面積ヲ求ムル方法並ニ其理由ヲ記セヨ

(注意) 三ニ就キテハ運算ヲ詳記シ二、四、五、ニ就キテハ解法運算答ヲ明記スベシ

理科

(同前)

(三時間)

物理

第一 何ヲカ物体ノ重心トハ云フヤ

第二 凹鏡ノ主燒點ニ一光源ヲ置クトキハ其反射光ハ如何ナル方向ヲ取ルヤ

化學

第一 炭酸瓦斯ノ製法及ビ性質ヲ記セ

第二 酸化還元、潮解及ビ風化トハ如何博物

第一 子房下位花及ビ子房上位花ノ構造ヲ記セ

第二 有胚乳種子ト無胚乳種子トノ別ヲ問フ其ノ各ノ一例ヲ舉ゲテ之レヲ記セ

第三 動物ノ呼吸作用ニヨリテ空氣ヲ取ルハ生理上如何ナル必要ア

リテ然ルカ

第四 人体ノ食物消化ニ關スル器官及ビ其ノ各部ノ名稱ヲ記セ

裁縫科

(技藝科)

(三時間)

第一 唐縮緬友禪大巾たけ一丈六尺七寸ノ用布ニテ三ツ身裁着物並

ニ四ツ身裁被布各表一枚ヲ普通寸法ニヨリテ裁タントス然ルトキハ其裁チ合セ方如何ニシテ可ナルカ

右圖解ニ各部ノ名稱及寸法ヲ記入シ且其積リ方ノ算式ヲモ示セ

第二 與フル所ノ布ト糸トヲ用キテ衽七分ノ裙左右ヲ縫フベシ但シ綿ハ省ク

習字科

(技藝科)

(一時間)

第一 責善朋友之道也

右楷行二体

第二 いたつらにすくる月日はおほかれど花みてくらす春ぞすくな
き

圖畫科

(全前)

(一時間)

毛筆畫

第一 線畫

硯筆

壹葉ニ畫クベシ

第二 墨畫

菊

全

明治二十六年入學試験

國語科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

文法

第一 左の漢字に和訓を付して其の活用を示せ
 絶 老 射 懲 費

第二 動詞の名詞法(假体言)を説明せよ

第三 左の文を訂正し且其の理由を説明せよ

(イ) 此の處へ塵芥を捨てるべからず

(ロ) 正直ならば人に信用さる

(ハ) 少年に金錢を持たすは害あり

解釋

我が邦にて中古元氣の衰へたりし代にあたり佛法流行して華洛の

貴紳ともすれば無常を觀じまた月花に對しては心もどかならぬ
 までにあこがれぬるをぞみやびたる業とはしける其の頃の冊子の
 今に遺れるは詞こそやさしく妙なれ上古のてふりには似もよらず
 異國の六朝又は晩唐の織巧ともいふべき調へにぞ流れたるを今
 の世の人に教へて衰時の氣象を昭代に移さむとするはいかにぞや

同

(全前)

(三時間)

作文

自己の學問の經歷

普通文体

漢文科

(文科理科)

(三時間)

每字ノ傍ニ音訓ノ假名ヲ付ケ別紙ニ意義ヲ解釋セシム

- 第一 藤原成親平康頼西光等圖滅平氏會鹿谷別館謀事宴酣馬逸坐者驚起誤仆瓶子成親曰平氏仆矣西光曰盍梟其首康頼進曰梟首檢非違使之任也取瓶懸之柱上一坐大笑
- 第二 趙王倫廢賈后殺之自加九錫逼帝禪位黨與皆爲鄉相奴卒亦加爵位每朝會貂蟬盈坐時人語曰貂不足狗尾續
- 第三 階前萬里 一榻之外皆他人家也故來見鄉封豕長蛇荐食上國 重瞳屏息

歷史科

(文科理科)

(三時間)

- 第一 平安時代ニ源氏ガ東國ニ立テシ功ヲ記セ
- 第二 島原ノ亂ニツキテ知レル所ヲ述ヘヨ
- 第三 江戸幕府時代ノ國學者及ビ漢學者ニツキテ最モ著名ナルモノ

各四人ヲアゲヨ

- 第四 戰國時代ニ於ケル齊秦ノ疆域ハ凡ソ現今支那ノ何省ノ地ニ當ルヤ
- 第五 拔都ノ事蹟ヲ問フ
- 第六 支那ニテ南北朝ノ世ト稱スルハ如何ナル時代ナルヤ
- 第七 「アツシリア」滅亡後其屬領地内ニ興リタル國ノ名及ビ其位地ヲ問フ
- 第八 西曆八百四十三年ノ「ヴェルダン」ノ和約ヲ説明セヨ
- 第九 三十年戰爭ノ原因及ビ此戰爭ニ關係シタル重ナル人ノ名ヲ問フ

數學科

(三時間)

- 第一 一石ニ付十六圓五十錢ノ相場ニテ白米ヲ買ヒ入レ之ヲ一圓ニ付五舛六合替ニテ賣ル時ハ四斗二舛入壹俵ヲ賣リテ何程ノ利益アルカ
- 第二 地球ノ赤道ニ於ケル周圍ハ四〇〇七〇三六八メートルナリ今其二万一千六百分ノ一ヲ一海里トスル時ハ一海里ハ何町何間何尺トナルカ
- 第三 絹一反ノ價ハ紬一反ヨリ一圓八十錢高ク又絹五反ノ價ハ紬七反ノ價ニ等シト云フ各一反ノ價何程ナルカ
- 第四 馬三頭ヲ養フ費用ハ羊二十五頭ヲ養フ費用ニ等シトスレバ馬六頭ト羊二十頭トヲ一ヶ月間養フ費用ニテ馬九頭羊三十頭トヲ幾日間養ヒ得ベキカ
- 第五 或會社ニ於テ一ヶ年ノ純益金ハ資本金ノ七朱二厘ニ當レリ然

- ルニ資本金ノ中壹百萬圓ヲ省キテ其余ニ配當シタルヲ以テ配當ノ歩合八朱ニ當レリト云フ此會社ノ資本金總額幾何ナルカ
 - 第六 頂角ガ直角ナル二等邊三角形ノ高サハ其底邊ノ半分ニ等シキコトヲ証明セヨ
 - 第七 一直線上ニアラザル三ツノ點ヲ過ギリテ圓周ヲ畫ク方法及其証明ヲ記セヨ
- (注意) (一)(二)ニ就キテハ運算答ヲ明記シ (三)(四)(五)ニ就キテハ解法運算答ヲ詳記スベシ

理科

(文科理科技藝科共)

(三時間)

物理

- 第一 水入レニ穿テルニ孔ノ内一孔ヲ閉ヅレバ水ハ殆ンド出入スル

能ハズ其理如何

第二 水平ノ面ニ於テ自由ニ旋リ得ル磁石ノ鍼ハ南北ノ方向ノミヲ取リテ靜止ス其理如何

化學

第一 左ノ場合ニ於テ起ル化學變化ヲ記セ

(イ) 亞鉛ニ稀硫酸ヲ注加ス

(ロ) 食鹽ニ硫酸ヲ注加シ之ヲ熱ス

(ハ) 鹽化アムモニウムト生石灰トノ混合物ヲ熱ス

(ニ) 石灰石ヲ強熱ス

(ホ) 硫化鐵ニ稀硫酸ヲ注加ス

第二 定比例ノ定律及ビ倍數比例ノ定律ヲ述ベヨ
博物

第一 たんばノ花ノ構造ニ就キ知レル所ヲ記セ

第二 植物ノ呼吸作用ハ空氣ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ又之ヲ証明スル方法ハ如何

第三 昆蟲類ト蜘蛛類トノ形態ニ關スル差違ノ重ナル諸點ヲ記セ

第四 人ノ心臟ニ出入スル大脈管ノ員數及ヒ名稱ト血液循環ノ順序トヲ記セ

裁縫科

(技藝科)

(三時間)

第一 並幅ノ表地ニテ本裁女綿入上着並ニ下着廻リ各無垢一枚分ヲ

普通寸法ニシテ裁合サントス然ラバ其總丈幾許ヲ要スルカ

右裁方ヲ圖解シ之ニ各部ノ名稱寸法ヲ記入シ且其積方ノ算式ヲモ示セ

第二 與フル所ノ材料ヲ用非テ男裕ノ右ノ片袖ヲ縫フベシ
但シ寸法ハ實物二分ノ一トス

習字科 (技藝科) (一時間)

第一 靜以修身儉以養德 楷書
第二 心せでかきながしたる水ぐきのあとになかくふしはありけ

圖畫科 (技藝科) (一時間)

毛筆書
第一 練書 筆立は筆 壹葉ニ書クベシ
第二 墨書 菊 壹葉ニ書クベシ

明治三十七年入學試験

國語科 (文科) (一時間)

文法

第一 だにとさへとの區別を記せ
第二 左の施線の部分につきて文法上の差異を説け
(イ) 花散らなむ 花散りなむ
(ロ) 生き残りしもの 生きとし生けるもの
第三 左の文に誤あらば正せ
(イ) 君子は欺くべきも誣ゆべからず
(ロ) 何某は大學の業を卒りで歸國せしと云ふ

(今にして斷然之れを廢さずば後必ず悔ふる事あり)

同

(理科技藝科)

(一時間)

第一 左の漢字に和訓をつけて其の活用を記せ

薰 辨 閉 恨 斃

第二 ばの用法につきて知れることを記せ

第三 左の文に誤あらば正せ

- (イ) 誓ふて君恩に報ひるべし
- (ロ) 義朝を殺せし人は誰れなりや
- (ハ) たとへ名を汚して生くるもかひなし

解釋

(文科)

(三時間)

我が西山公封域の政事に御心を用ひ給ひて仁刑過ち給はねば士に
 ひらいなる振舞なく民によこしまなる訟を聞かずおのづから靜な
 る御暇に武備文事古き跡を興させ給ふ中に本朝の史傳の委しから
 ずして古人の履歷隠れうつもれぬるをうれはしみ給ひて武州小石
 川の藩邸に彰考館といふを立て、神武より始め後小松院に至るま
 で本紀列傳を選び給へるが尙百敷や大宮に御事ども年々にすたり
 行くをはいなう覺して舊記のうちより恆例臨時の公事を類聚させ
 せ給へり之を禮儀類典と名づくかくて書体を仙洞へ奏覽し且は群
 卿の批判をも承け給ばらむとたのみ聞え給へり

同

(理科技藝科)

(三時間)

白川樂翁公は幼時稟性虛弱なりしか醫藥灸治の力によりて成長し

たり此の頃よりはや後年非凡の人となるべきさざし見えて嬉戯の
さまも凡て小兒の如くならずいかで我が日本は更なり唐土にも我
が名を知られむ程の偉業をなさばやと思ひ立ちしは十歳あまりの
時なりけり

夫れ氣概は溢るゝばかりなるに身体の健康これに伴はざる人は概
ね性急なる者なりされば公の侍臣たちも百方苦心して或は婉曲に
諷し或は顔を干して直諫せし事たび重なりければ公も漸く其の累
徳を悟りていたく自から抑へて遂に弱冠の頃には全く豹變するに
至れり

作文

(文科理科技藝科共)

(二時間)

知るは易く行ふは難き説

漢文科

(文科)

(二時間)

解釋

第一 予負笈遠遊若三千年干茲比得家書老母日逼衰頽倚閭待予歸
每一念至百感攢心如幸賴吾先生先容得釋禍干本藩則願足矣

右送假名ヲ付ケ意義ヲ解釋セヨ

第二 夫云婦徳不必才明絶異也婦言不必辯口利辭也婦容不必顔色
美麗也婦功不必技巧過人也幽間貞靜守節整齊行己有恥動靜有
法是謂婦徳擇辭而説不道惡語時然後言不厭於人是謂婦言盥浣
塵穢服飾鮮潔沐浴以時身不垢辱是謂婦容專心紡績不好戲笑潔
齊酒食以奉賓客是謂婦功

右送假名ヲ付クベシ

數學科

(文科技藝科)

(二時間)

- 第一 「メートル」ヲ 3.2807「フート」ニ等シトスレバ 鯨尺一尺ハ幾「フート」ニ等シキカ「フート」ノ小數三位マデ求メ以下四捨五入セヨ
- 第二 一晝夜ニ三十分ツ、進ム時計ヲ或日ノ正午ニ正シキ時計ニ合セ置クトキハ翌朝此時計ノ七時三十六分ヲ示ス時刻ハ正シキ時計ノ何時ナルカ
- 第三 或小學校ノ生徒總員五百二十人一ヶ月ノ授業料一人ニツキ高等科ハ八十錢尋常科ハ十五錢ニシテ之ヲ生徒總員ニ平均スレバ二十七錢五厘トナルト云フ此學校ノ高等科及ビ尋常科ノ生徒人員各幾何ナルカ
- 第四 七百五十圓ニテ買ヒ入レタル品ヲ四ヶ月ノ後八百四十圓ニテ

賣ル時ハ日歩二錢八厘ノ歩合ニテ利息ヲ引キ去ラバ幾割ノ利益ニ當ルベキカ

第五 梯形ノ平行セザル邊ノ一ツヲ任意ノ數ニ等分シ其各分點ヲ過ギリ平行セル邊ニ平行シテ引キタル直線ハ平行セザル他ノ一邊ヲ等分スルコトヲ證明セヨ

(注意) 一ヨリ四マデノ問題ニ就キテハ運算解及ビ答ヲ記スベシ

同

(理科)

(二時間)

- 第一 羅紗一「メートル」ニ付四「マルク」ノ價ヲ換算シテ鯨尺一尺ニ付七十二錢五厘トナルトキハ一「マルク」ハ幾圓ニ當レルカ
- 第二 五錢白銅貨及ビ壹錢青銅貨取交ゼテ壹圓其重サ 8.5g 歟アリ今貨幣一個ノ重サ平均白銅貨ハ 1.2g 歟青銅貨ハ 1.0g 歟ナリトスレバニ

種ノ貨幣各幾個アルカ

第三 空氣ハ容積百分中ニ酸素20%窒素78%分ヲ含ム今酸素及ビ窒氣各一立方尺ノ重サノ比ヲ0.125トノ如シトスレバ空氣ハ重サ百分中ニ幾何分ノ酸素及ビ窒素ヲ含ムコトトナルカ各小數一位マデ求メ以下四捨五入セヨ

第四 小麥若干俵アリ之ヲ一俵ニ付二圓八十錢ノ大麥ト交換スレバ其俵數五俵ヲ増シ若シ之ヲ一俵ニ付四圓ノ米ト交換スレバ其俵數七俵ヲ減スト云フ小麥ノ俵數及ビ其一俵ノ價ヲ求ム

第五 原價四百圓ノ商品ヲ賣リテ其代價ヲ額面五百十圓三ヶ月拂ノ約束手形ニテ受ケ取り之ヲ銀行ニ於テ年八分ノ歩合ニテ割引スル時ハ幾割ヲ利スルコトナルカ

各問題ニ就キテハ運算解及ヒ答ヲ記スベシ

同「幾何」(理科)

(二時間)

- 第一 平行四邊形ノ對角線ノ交點ヲ過ギル任意ノ直線ハ之ヲ等積ナルニツノ部分ニ分ツコトヲ証明セヨ
- 第二 正多角形トハ如何ナルモノカ又其中心トハ何ヲ云フカ
正多角形ノ中心ヲ求ムル方法並ニ其理由ヲ記セ

理科

博物

(文科技藝科)

(二時間)

- 第一 菊花ノ他花ト異ナル所ヲ記セ
- 第二 植物ノ同化作用(一名類化作用)トハ如何ナル作用ナルカ
- 第三 昆蟲ノ完全變態ヲ經過スル狀ヲ記セ

第四 血管及ヒ淋巴管ノ効用ヲ問フ

動物植物

(理科)

(二時間)

第一 圖ヲ描キテ蝶形花(一名蛾形花)各部ノ構造ヲ示セ

第二 植物ノ呼吸作用ハ如何ニシテ何處ニ營マルルカ

第三 鳥類ノ脚ト獸類ノ脚ト其ノ構造上互ニ異ナル點ヲ記セ

第四 節足動物ノ各綱ヲ舉ゲテ之レニ二三ノ實例ヲ附セ

生理

(理科)

(二時間)

第一 胃液及ヒ粹液ノ主用ヲ問フ

第二 吾人ガ物体ノ遠近ニ係ラズコレヲ明視シ得ルハ如何ナル理ニ

由ルカ

物理

(文科技藝科)

(一時間)

第一 ポンプ中ニ水ノ昇ル理由如何

第二 水ノ解ケ盡サル間ハ熱ヲ加フルモ温度ニ變化ナシ其理由如何

何

同

(理科)

(二時間)

第一 落ツル物体ノ速度ハ次第ニ増加スルノ理如何

第二 兩面平行ナル硝子板ヲ通過スル光ト三稜硝子(プリズム)ヲ通過

スル光トニ如何ナル差異アルカ

第三 導線中ニ電流ノ有無ハ如何ニシテ之ヲ知り得ベキヤ

化學

(文科技藝科)

(二時間)

第一 空氣中ニ於テ左ノ諸物質ノ燃燒ニヨリ生ズル物質ノ名稱及ビ

性質ヲ記セ

(イ) 水素

(ロ) 木炭

(ハ) 硫黃

第二 鐵瓶藥罐等ノ内面ニ湯垢ノ生ズルハ如何ナル理ニヨルヤ

同

(理科)

(二時間)

第一 左ノ諸物質ノ製法及ビ性質ヲ記セ

(イ) 水素 (ロ) 鹽素 (ハ) アムモニア (ニ) 炭酸瓦斯

第二 化學的變化ヲ受クルモ物質ハ不生不滅ナルヲ明ニセヨ

第三 水ノ硬軟及ビ硬水ヲ軟水ニ變スル方法ニ就キ知レル所ヲ記セ

裁縫科

(技藝科)

(二時間)

第一 用布本場八丈一反ニテ前衿裁並ニ一ツ身裁各一枚ノ裁チ合セ

方ヲ圖解シ之ニ各部ノ名稱及ビ裁チ切り寸法ヲ記入シ且ツ其積リ方ノ算法ヲモ記載スベシ

第二 本裁綿入男物ノ標附ケ方ヲ圖解シ之ニ其順序ヲ記入シ且ツ普通仕立上ケ寸法ヲモ明記セヨ

同

(技藝科)

(二時間)

與フル所ノ材料品ヲ用ヒテ四ツ身裕ノ上前ヲ實物二分ノ一ノ寸法ニシテ縫フベシ
但シ襦ノ寸法ハ實物ノ通り

圖畫科

(技藝科)

(二時間)

毛筆畫

第一 墨畫

竹

一葉

第二 線畫

自身ノ左手ヲ寫ス 一葉

明治三十八年入學試験

國語科

文法

(文科)

(二時間)

第一 やとかとの(共に疑ふ意の助辭)區別を記せ

第二 左の施線の部分につき文法上の差異を説け

(イ) いさ知らず いさ來給へ

(ロ) 机に向ふ 春來にけり

第三 左の文に誤あらば正せ

(イ) 何處ともなく足に任して落ち行き給ふ心の中を哀なれ

(ロ) 宿痾癒へて多年の憂苦消え失せり

同

(理科技藝科)

(二時間)

第一 他の詞より轉じて名詞となりたるものを説け

第二 左の施線の部分につき文法上の差異を説け

(イ) 人たる道 行きたる人

(ロ) 人まつ虫の聲すなり 其の謀空しくなりけり

第三 左の文に誤あらば正せ

(イ) 音楽と裁縫は必ず女子の修むべきものなり

(ロ) 死傷者幾何なりしや數ふに堪わざりき

解釋

(文科)

(三時間)

第一 薬師寺なる六重の塔は天武天皇の御宇に草創のまゝなる由塔上にゑられたる銘文は舍人親王の遊ばされし所といふいかで之を見てしがなと思へど六層の高さといふ寒風烈しければ父母の遺體

を思はずやと同行者のいさめいなび難くてためらひぬれを再び來べき身にもあらねば折しも雨さへふり出でたれを彼の同行者にはさとも知らせず坊の小者をかたらひしのびて一人登りぬ六層までは内にあやしの梯あるにすがりつゝ辛うしてすばき所をくゞりゆく六重の屋根に窓ありて下より蓋を押し上げ屋のふちに手をかけぬい聲をあげて身もぬけ出でぬれば四方の山々雨中の眺望いとこまなし

第二 立ちかへりたる空の一夜に改まりぬる程もしるく都の山もけさは霞みて日の光のうらゝかさは宮もわらやもへだてなければごまして九重の御垣の内は心ことなり衛士のたく火の烟さへまだき霞に立ちそひて鳥のなくぬもさながら千代の春なりけり

同

(理科技藝科)

(二時間)

益軒先生常に門人に語りて曰はく天人を生じ其の才によりて人に益ある事をなさしむ上たる人の世を經濟し給ふより下一材一藝ある者に至るまで其のはどゞに就きて人に益ある事をなすは各其の天職なりもし嘉穀を食ひ白日を度り徒に一生を過ごさんば天の恩徳に恃るなりみづから他の材藝なし幸に古人の書を読みて少しの文字を作る事を知り得ぬれば是れを以て庸俗を曉諭して小補にもなりなば素餐の罪を免るゝよすがともなりぬべしとて一生の間著述に筆をといめず筆を易ふるまで致々として倦み給はざりき

(注意) 右文の大意を解釋し特に傍線を引きたる所を抜き出だして読み方並びに略解を附記せよ

同

作文 (文科理科技藝科共)

(二時間)

克己ノ説

漢文科 (文科)

(二時間)

第一 心猶面也是以甚致飾焉故覽鏡拭面則思心當潔淨傳脂則思心當點檢加粉則思心當明白澤髮則思心當柔順

第二 子思居於衛言苟變可將衛公曰變骨爲吏賦於民食人二鷄子故弗用子思曰聖人用人猶匠之用木取其所以長棄其所短故杞梓連抱而有數尺之朽良工不棄今君處戰國之世而以二卵棄于城之將此不可使聞於隣國也

右二題國語ノ法則ニ違ヒテ送假名ヲ施シ且ツノ意義ヲ解釋セヨ

數學科

(文科技藝科)

(二時間)

第一 縮尺四十万分ノ一ノ地圖ニテ甲乙二地ノ距離二十五センチメートルアル時ハ實際ノ距離ハ里法ニテ何程アルカ

第二 次式ノ結果ヲ小數ニ化セヨ

$$\left(\frac{4\frac{1}{15} + 3\frac{12}{25}\right) \times 1\frac{1}{25}$$

$$14\frac{5}{6} - 7\frac{5}{6}$$

第三 一工事アリ三十人ノ工夫ヲ使役シテ十八日間ニ成シ終ルベキ豫定ナリシニ就業ノ後四日ヲ經テ工夫二人ヲ解傭シ更ニ六日ヲ經テ七人ヲ解傭シタリ然ル時ハ工事成業ノ期日幾日後ルベキカ

第四 一ケ年毎ニ利息ヲ元金ニ繰リ入ルル時ハ年利八分元金六百圓ニ對スル二年三ヶ月間ノ利息何程ナルカ

第五 定規ト兩脚規トヲ用ヒテ直角ヲ三等分スル方法並ニ其理由ヲ記セ

(注意) 一ヨリ四マデノ問題ニハ運算解答ヲ記スベシ

同

(理科)

(二時間)

- 第一 「キロメートル」平方ノ土地ノ面積ヲ段別ニテ表ハセ
- 第二 甲乙二地ノ間ヲ往復スル往路ニハ毎日平均十六里二十四町ツツヲ歩ミ歸路ニハ十二里半ヅ、歩ミタルガタメニ歸路ニ費セシ日數ハ往路ヨリモ二日多シト云フ此二地ノ間ノ距離ヲ求ム
- 第三 或小學校ノ生徒數男生徒ハ總員ノ九分ノ五ヨリ五人少ナク女生徒ハ總員ノ七分ノ三ヨリ十一人多シト云フ男女生徒ノ數各如何
- 第四 馬ト牛トハ力ノ比 $4:3$ ニシテ速サノ比 $3:4$ ナリトスレバ牛十二頭ニテ七日間ニ運ブ荷物ヲ馬九頭ニテ幾日間ニ運ビ得ルカ
- 第五 今ヨリ五ヶ年後ニ償還サルベキ年五分利付ノ債券ヲ額面百圓ニ付九十六圓ニテ買フ時ハ單利ニテ計算シテ年利何程ノ利廻リニ當ルカ

各問題ニハ運算解答ヲ記スベシ

同

「幾何」

(理科)

(一時間)

- 第一 平行四邊形ノ相對スル角ノ二等分線ハ互ニ平行ナルコトヲ証明セヨ
- 第二 與ヘラレタル直線ヲ一邊トシテ正六邊形ヲ作ル方法並ニ其理由ヲ記セ

理科

博物

(文科技藝科)

(二時間)

- 第一 双子葉莖ト單子葉莖トノ構造ノ別ヲ記セ
- 第二 植物ト動物トヲ比較シテ生理作用上最モ相異セル事項ヲ記セ
- 第三 生物ノ自然淘汰トハ如何ナル事柄ヲ指スカ一例ヲ舉ケテ之レ

ヲ記セ

第四 肺臟ト腎臟ノ主用及ビ其ノ區別ヲ問フ

同

植物動物 (理科)

(二時間)

第一 オフノ花ニ就キテ左ノ二項ヲ記セ

(イ) 雄花雌花ノ構造及ビ枝上ニ於ケル其ノ位置

(ロ) 花粉ヲ媒介スル方便

第二 草木ノ枝ヨリ發生セル三種ノ器官ト其ノ作用トヲ問フ

第三 鳥類ト爬蟲トハ解剖上如何ナル點ニ於テ一致スルカ

第四 昆蟲類中左ノ諸目々各々二三ノ種類ヲ附記セヨ

(イ) 膜翅類

(ロ) 鞘翅類

(ハ) 直翅類

(ニ) 脈翅類

(ホ) 二翅類

生理

(理科)

(二時間)

第一 耳ノ構造ト音波ノ傳達セラルル狀トヲ記セ

第二 乳糜トハ何ゾヤ又乳糜管ト血管トノ關係ハ如何

物理

(文科技藝科)

(二時間)

第一 山彦ハ如何ナル場合ニ聞クコトヲ得ルヤ

第二 寒暖計ハ何ニ由テ物体ノ冷熱ヲ知り得ルヤ

同

(理科)

(二時間)

第一 電光雷鳴ハ同時ニ發起スルモノナルニ通常先ヅ電光ヲ見而シ

テ後雷鳴ヲ聞ク其理如何

第二 夏ハ冬ヨリモ濕リタル道路衣服等ノ早ク乾クヲ通常トス其ノ

理如何

第三 凹面レンズヲ透シテ物体ヲ見レバ如何ニ見ユルヤ

化學

(文科技藝科)

(二時間)

第一 生石灰ノ製法及ビ性質ヲ記セ

第二 漂白劑トシテ用ヒラル、物質ニ就テ知レル所ヲ記セ

同

(理科)

(二時間)

第一 硫黄ノ燃燒ニヨリ生ズル氣體ノ性質ヲ記セ

第二 左ノ諸氣體ヲ簡單ニ識別スル方法ヲ記セ

(イ) 酸素 (ロ) 塩素 (ハ) アムモニア (ニ) 炭酸瓦斯

第三 酒類ガ腐敗スレバ酸味ヲ呈スルハ如何ナル作用ニヨルカ

裁縫科ノ一

(技藝科)

(三時間)

第一 三尺幅一丈三尺五寸ノ用布ニテ女袴中裁二具凡十一歳ト十三歳ノ裁チ合セ方ヲ圖解シ之ニ各部ノ名稱並ニ寸法ヲ記入シ且其ノ

積リ方ノ算式ヲ示セ

第二 並幅一反ノ用布ニテ女被布合羽ノ裁チ方並ニ各部ノ名稱寸法及ビ積リ方ノ算式ヲ記載スベシ

同二

(技藝科)

(二時間)

與フル所ノ材料品ヲ以テ左ノ通り縫フベシ

(一) 女物口綿入ノ左片袖

但シ袖口明六寸 袖附五寸 袂丸一寸

(二) 穴かゝり 二個 長四分

但シ用布ハキヤラコヲ用ユ

圖畫科

(技藝科)

(二時間)

第一 墨畫

花卉

一葉

第二 線畫

自身ノ左手ヲ寫スベシ 一葉

但シゆびざしゝたる圖に限る

明治三十九年入學試驗問題

國語科

文法

(文科)

(一時間)

第一 上一段活用ノ動詞ヲ列舉セヨ

第二 名詞動詞カ副詞トナル場合ヲ例示セヨ

第三 左ノ文ヲ單語ニ分解シテ其品詞ノ名稱ヲ記セ

汝の心眞によしされど將來身を立てむと思はゞまづ朋友を求めよ

これ處世の要訣なるぞ

文法

(理技科)

(一時間)

第一 動詞ト形容詞トノ差異ヲ記セ

第二 左ノ文ニ誤アルハ正セ

溪に沿ふて進まば山高く聳へ水清く流れて塵外の趣あり枝にさい
する鳥花にたわむる蝶も欣々春をよるこぶものゝ如く積日の勞苦
も一掃され足の疲るを覺へず

解釋

(文科)

(三時間)

第一 左ノ文章ヲ通解セヨ

己れ京に上りて在りし程宿れりし所は四條大路の南烏丸の東なり

けり家はや、おくまりてありければ物のけはひうとかりけれど朝
夕門に立ち出でつゝ見るに道も廣くはれ、しきに往きかふ人し
げくいと賑はしきは田舎に住みなれたるめうつしこよなくてめ
さむること、ちなむしける京といへどなべてはかくしもあらぬを此
の四條大路などは殊に賑ははし天の下に三どころの大都の中に江
戸大阪はあまり人のゆき、多くらうがはしき程の賑はひにてよろ
づの社々寺などのよしある多く思ひなしたふと日すべて物きよら
かによるづの事みやびたるなど天の下にすまはしきはさはいへ
ど京をおきて外にはなかりけり

第三 左ノ辭句ニ讀方並ニ略解ヲ附セヨ

- (イ) 九重の庭百敷の内 (ロ) 榻にたてたる網代車
- (ハ) 本領安堵の御教書 (ニ) 野伏山立の張本

(ホ) 一辭ありげな面魂

解釋

(理技科)

桓武の帝奈良の都より山城、國長岡に移りをはしましませしけるが今の
都の地山河襟帯の勝境なる事をしるしめして長岡より重ねて此所に
宮所を移させたまふ此の地四方の最中に在りて平原の地なり且中州
の奥區にて上流に在り山川水土地境にすぐれてうるはしく帝城とな
りぬべき天府の國なれば萬代不易の地なるべしと定めさせたまひ諸
民の同じくよろこび祝へる言に従ひて平安城と名づけらる凡此の都
内外の名區櫛の如くつらなり陳迹基の如くに布ける事を京なる人だ
に知らざるもの多かりいはむや鄙より始めて來りし人其の故邑にな
らひて上邦を見ざる輩は未だ名勝のある所を知らじ又此の都に住あ
る人も古語に蓼蟲不知辛といへる如く平安の名の此の都の風土の實

にかなへる事を知らで過す事なからじやは

(注意) 右文ノ讀ミ方並ニ解釋ヲナスヘシ

漢文科

(文科)

(二時間)

解釋

第一 夏秋間。里中郷隣收麥禾。雇女春簸。乃必星夜而起。爲一日饋食。以給父。未嘗貽勞。又必日一反而面。雖大風雨未嘗變。即有得滋味。雖微物必持歸。非餒不敢食。以故每女出。父倚閭而望。至輒忻然喜。如孺子慕母然。

第二 上使使者奉安車蒲輪。束帛加璧。迎魯申公。既至。問治亂之事。公年八十餘。對曰。爲治者不在多言。願力行何如耳。

右二題トモ送假名ヲ施シ意義ヲ通解セヨ。

數學科

(文技科)

(二時間)

第一 長サ二百五十尺ノ列車カ一時間五里ノ速サニテ長サ四百七十尺ノトンネルヲ通過スルニハ幾秒ヲ要スルカ

第二 $0.13\frac{5}{7} \times 2\frac{11}{12}$ ノ結果ヲ分數ニテ表ハセ

第三 金百圓ヲ以テ三俵ニツキ十四圓ノ米ヲ買ヒタルニ二十一俵ト端米一斗五升トヲ得タリト云フ一俵ハ幾升入ナルカ

第四 八ヶ月ノ後拂フヘキ約束ノ金三百六十四圓ヲ今直チニ拂フトキハ何程ノ損アルカ之ヲ年六分ノ歩合ニテ計算セヨ

第五 平行四邊形ノ相隣ナル二邊ノ中點ヲ過キル一ツノ直線ニテ之ヲ二ツノ部分ニ分ツトキハ其二ツノ部分ノ面積如何ナル比ヲ有スルカ

(1)(3)(4)ノ問題ニ就キテハ運算答解ヲ記シ(2)ノ問題ニ就キテハ運算答ヲ記入スヘシ

同 算術 (理科)

(二時間)

- 第一 $\frac{29}{29}$ ニ如何ナル整数ヲ乗スルトキハ0.794ニ最近キ數ヲ得ヘキカ
- 第二 姉妹アリ姉ハ金六十圓ヲ所持シ其中ヨリ毎月三圓三十錢ツ、ヲ消費シ妹ハ金十二圓ヲ所持シ之ニ毎月二圓七十錢ツ、ヲ積ミ足スルトキハ幾ケ月ノ後二人ノ所持金相等シクナルカ
- 第三 甲乙二港ノ間ヲ航海スル汽船アリ尋常ノ速サニテハ四十時間ヲ要シ高度ノ速サニテハ三十時間ヲ要ス然ルトキハ此二港ノ間ヲ航スルニ當リ費セシ時間ノ三分ノ一ハ高度ノ速サニテ其餘ハ尋常ノ速サニテ進行センニハ幾時間ヲ要スヘキカ
- 第四 年利六分ニテ預ケタル銀行預ケ金ヲ引キ出シテ毎年一割ノ配

當ヲナスヘキ某會社株五十圓券ヲ八十圓ノ時價ニテ二百四十株買ヒ入ル、トキハ一ケ年ノ收入幾何ヲ増加スヘキカ

第五 $\frac{10}{10}$ ヲ小數第四位マテ正シク求メヨ

(1)ヨリ(4)マテノ問題ニ就キテハ運算答解ヲ記シ(5)問題ニ就キテハ運算答ヲ記スヘシ

同 幾何 (理科)

(二時間)

- 第一 圓外ノ一點ヨリ其圓ヘ二ツノ切線ヲ引クトキハ切點ヲ結ヒ付クル直線ハ其點ト圓ノ中心トハ結ヒ付クル直線ニテ直角ニ二等分セラル、コトヲ證明セヨ
- 第二 斜邊ト一邊トノ和及ヒ他ノ一邊ヲ與ヘテ直角三角形ヲ作ル方法ヲ記シ且ツ其理由ヲ述ヘヨ

理科

植物動物生理

(文技科)

(二時間)

第一 諸器官悉ク花托ヨリ生セル完全花ノ一例ヲ舉ケテ各器官ノ數及ヒ排列ノ狀ヲ記セ

第二 葉脈ノ種類ヲ記セ

第三 節脚動物ノ綱ヲ舉ケテ之レニ各一二ノ例ヲ附記セヨ

第四 蝶類ト蛾類トノ形態上ノ別ヲ問フ

第五 動脈ト靜脈トノ構造上ノ別ヲ記セ

第六 人體ニ必要ナル營養素ノ種類ヲ舉ケヨ

植物動物

(理科)

(二時間)

第一 複子房ニ生スル胎坐ノ主タル種類ヲ記セ

第二 植物呼吸ノ結果ハ如何ニシテ證明セラル、カ

第三 本邦ノ内地ニ産スル單子葉植物ニシテ樹木狀ヲ成スモノ二種ヲ舉ケヨ

第四 動物ノ例ヲ舉ケテ寄生ト共生トノ區別ヲ記セ

第五 兩棲類及ヒ魚類ノ心臟ノ構造ヲ記セ

第六 水中ニ生活スル普通ノ甲蟲類二種ヲ舉ケヨ

物理

(文技科)

(二時間)

第一 吾人鏡ニ向ヘハ鏡ノ後ニ像ヲ生スル理由ヲ圖解セヨ

第二 熱量ト比熱トノ區別如何

同

(理科)

(二時間)

第一 水壓機ノ原理如何

第二 望遠鏡ヲ以テ物體ヲ見タル景態ヲ圖解セヨ

第三

第三 ーデン瓶ニ就テ知レル所ヲ記セ

化學

(文技科)

(一時間)

第一 左ノ諸化合物ハ如何ナル元素ヨリ成レルカ

(イ) アムモニア

(ハ) 硝石

(ニ) 炭酸ソーダ

(ホ) 燈用石油

(ト) アルコール

(チ) 蛋白質

第二 セルローズ(纖維素)ニ濃硝酸ト濃硫酸ノ混合液ヲ作用セシメ得

ル主要ナル製品ヲ記セ

同

(理科)

(二時間)

第一 水溶液ヨリ水ト溶解セル物質ヲ分ツ方法ヲ記セ

第二 左ノ場合ニ於テ生スル物質ヲ記セ

(イ) 石灰石ニ鹽酸ヲ注加ス

(ロ) 鹽化水素ト「アムモニア」ヲ混ス

(ハ) 銅片ニ濃硫酸ヲ加ヘテ熱ス

第三 硝酸及ヒ硝石ニ就テ知レル所ヲ記セ

第四 石炭ノ乾溜ニヨリ製セラル、重要物質ノ用途ヲ記セ

生理

(理科)

(二時間)

第一 食物中諸種ノ營養素ハ如何ナル途ヲ取リテ血液ニ入ルカ

第二 觸感ヲ主トスル神經末器ノ構造及ヒ所在ヲ記セ

第三 血液ノ成分中血漿及ヒ赤血球ノ作用ヲ問フ

裁縫科

筆答

(技藝科)

(二時間)

第一 表地中幅物一反ト裏地並幅物トヲ以テ袖丈一尺六寸身丈二尺六寸五分ノ出來上リノ本裁女被布一枚ヲ仕立テントス左ノ各項ヲ説明スヘシ

(1)裏用布ノ總尺數 (2)表裏ノ裁チ方圖及ヒ各部ノ名稱裁チ切り寸法 (3)表裏地積リ方ノ算法

第二 片面物大幅ニヤール半ニテ大人シャツノ裁チ方ヲ圖解シ之レニ各部ノ名稱寸法ヲ詳細ニ記入スヘシ

實地

(二時間)

與フル所ノ材料品ニヨリ左ノ二題ニツキ實地ニ裁縫スヘシ

第一 拾男物ノ左前縫 但シ全體ノ寸法ハ實物ノ一トシ襷ハ實物二分ノ通りニナスヘシ

第二 大人女被布ノ小衿 但シ寸法ハ實物通り

圖畫科

(技藝科)

毛筆畫

(二時間)

第一 (墨畫)花卉

(一葉)

第二 (線畫)硯墨筆 配置ヨク寫生スヘシ

(一葉)

明治四十年入學試驗問題

國語科

文法

(文科)

(一時間)

第一 下二段阿行和行に活用する動詞を列記せよ

第二 左の語のあらゆる用法を説け

(イ)なり

(ロ)べし

文法

(理技科)

(一時間)

第一 左の語の活用を示せ

堪 悔 恥 き ぞとし

第二 左の施線の異同を説け

(イ) 花の散るまで木の枝に鳴け

(ロ) 山の半腹に達せざるに足は疲れにけり

解釋

(文科)

(三時間)

第一 左の文中まづ傍線をひきたる語を抜き出して略解し次に全篇の大意を釋くべし

○静かなる庵をかき拂ひ庭に草木石などよりありてしなし松の濤音たてて思ふ友詣で來れば茶點じて勸め我れも呑みなせせんはいと心ゆくわざにて文人歌よみななどの弄ばんにいとつきづきしうこそ覺ゆれざるを一文字をも知らで何のみやびたる心もなき男の唯

これを大事と構へて立居振舞つゆばかりもあとにたがへじと心にかけて儀式官のおほやけに仕ふるおももちせるに似たるはいどかたはらいたき業なり又調度なども昔の人はことそぎてうるはしからぬ方を好めるは故なきにあらねど今は黄金を積みて其の價を争ふばかりなるを人毎に挑み合へるはうたてくぞ覺ゆる……きたなげなるすゑうつはものなどの古び損はれたるをよになき寶と思へるは何事ぞやされど家居の作りざま調度の形など世に埋もれて事たらぬわび人などのもてあそばんには却りてつきづきしきもあるべし又あまりに心を入れて作りなせるにはしなかくれて厭はしきも多かり

第二 左の辭句を略解し漢字には讀方の假名を附くべし

(あ) 身に松坂の布子きて胴金したる脇差さしたり

- (い) 手釋鉢巻かひがひしく音頭木遣の聲もいさまし
- (う) 戈を枕にし金革をしきねにす
- (え) 沙門に聊爾致すな

解釋

(理技科)

(二時間)

左の文中まづ傍線をひきたる辭句を抜き出して讀方並に略解を記し次に全篇の大意を釋くべし

○漢學にのみ長け或は洋學をのみ修めたる人の套語に日本文は語法粗にして精微緻密なる理論文など記し得ず腰弱くして雄渾豪宕なる議論文など作り得ずといふたはけたる言といふべし此の論を破らむにはまづ談話に精密なる學術の蘊奥を言ひ取り言ひまはされぬか演説に雄辯滔々人をして發動傾聽せしむる事能はざるかよもさることばあらし此の談話の語のあるからはこれを書に筆せら

れずといふ事やあるべきおのが未熟にて文を作り得ぬにこそあれ……國文は古來いまだ文章家の工夫を積みたる事なくいまだ發達の道につかすしてありしものなり國文の道に盲なりながら徒に批難するたはことばさることにて鍛鍊をもへず發達を導きたる事もなき文に闕點を論ずるはいはれぬことなり既に講談に演説に自在なる言語のあるからはいよいよ切磋琢磨して學者の工夫を積みまば何ぞ漢文をも洋文をも凌駕するに至らぬ事のあらむ

作文

(文理技三科)

(二時間)

一 誠

右は普通漢字交り文體に認むべし

漢文科

(文科)

(二時間)

解釋

第一 近世淺薄、以相歡狎爲相與、以無圭角爲相歡愛、如此者、安能久、若蒙久、須是恭敬、君臣朋友、皆當以敬爲主也。

第二 漢成帝時、班婕妤有寵、帝遊後庭、欲與婕妤同輦、載婕妤辭曰、觀古圖畫、賢聖之君有、名臣在側、三代末主、乃有嬖妾、今欲同輦、得無近似之乎、帝善其言而止。

右二題とも送假名を施し意義を通釋せよ

數學科

(文技科)

(二時間)

第一 幅三間半ノ道路一里ノ間ニ厚サ平均五寸ノ土砂ヲ敷カンニハ立坪幾坪ノ土砂ヲ要スベキカ

第二 甲乙二船アリ甲船ガ二十時間ニ航スル海路ヲ乙船ハ十五時間

ニ航ス今甲船ガ或港ヲ出帆シテ三時間ノ後乙船ガ同所ヲ出帆シテ三時間ノ後乙船ガ同所ヲ出帆シ甲船ト同シ航路ヲ採ル時ハ乙船ハ出帆後幾時間ニシテ甲船ニ追ヒ付クベキカ

第三 一端ニツキ五圓七十錢ノ織物十三端ト八圓五十錢ノ織物十四端トヲ買ヒ入レ之ヲ賣リテ三割五分ノ利益ヲ得ンニハ平均一端ニツキ幾圓ノ割ニ賣ルベキカ

第四 大人ナラバ五人ニテ六日カカリ小供ナラバ八人ニテ十日カカル仕事アリ今之ヲ大人三人小供二人ニテナス時ハ幾日カカルカ

第五 直角三角形ノ斜邊ノ中點ヨリ他ノ二邊ヘ垂線ヲ引キテ作りタル四邊形ノ面積ハ原ノ三角形ノ二分ノ一ナルコトヲ證明セヨ

(一)ヨリ(四)マデノ問題ニ就キテハ解、運算答ヲ記スベシ

同 算術 (理科)

(二時間)

第一 生絲ノ相場百斤ニツキ一千百六十圓ナル時之ヲ佛貨ニ換算ス
レバ一「キログラム」ニツキ五十「フラン」ナルト云フ一「フラン」ハ我金貨
ノ何程ニ當ルカ

第二 若干圓ノ負債ヲ償却スルニ麥二十五俵ヲ以テセンニハ十圓不
足ス然ルニ一俵ニツキ麥ヨリハ二圓三十錢高價ナル米十八俵ヲ以
テセンニハ二圓剩ルト云フ此負債ノ金高何程ナルカ

第三 或小學校ノ生徒總員「 $\frac{1}{2}$ 」人ニシテ其中女生徒ノ人員ハ男生
徒ノ五分ノ四ヨリモ「 $\frac{1}{10}$ 」人少ナシト云フ此學校ノ男生徒及女生徒
ノ人員各何程ナルカ

第四 元價五百圓ノ商品ヲ六百三十圓ニテ賣リ其代價ノ中三分ノ一
ハ現金ニテ受取り其餘ハ六ヶ月拂ノ約束手形ニテ受取り之ヲ年一
割ノ歩合ニテ銀行ニ於テ割引スル時ハ差引利益ハ元價ノ幾割ニ當

ルカ

第五 甲乙丙三人ノ農夫アリ甲ガ田地三段ヲ耕ス間ニ乙ハ四段ヲ耕
シ乙ガ五日ニ耕ス田地ヲ丙ハ二日ニ耕ス割合ナル時ハ甲乙二人協
カシテ十日ニ耕ス田地ヲ乙丙二人協カシテ幾日ニ耕スベキカ

各問題ニハ解運算答ヲ記スベシ

同 幾何 (理科)

(一時間)

第一 圓ノ弦ヲ直角ニ二等分スル直線ハ其弦ニ對スル弧ヲ二等分ス
ルコトヲ證明セヨ

第二 正六邊形ノ一ツノ角ノ頂點ヨリ引キタル三ツノ對角線ハ其角
ヲ四等分スルコトヲ證明セヨ

理科

(文技科)

(二時間)

植物、動物、生理

第一 花の色美しく、且往々佳香を有するものあるは、植物生態上、何の爲なるか

第二 カキ(柿)と、ナシ(梨)との構造上の別を記せ

第三 軟體動物の三綱を擧げて、之れに各、二の例を附記せよ

第四 カウモリ及びクザラの獸類たるは、何に依りて判定せらるるか

第五 腦髓と脊髓とを比較して、其の組織上の區別を記せ

第六 門脈系とは、血液循環の如何なる部分なるか

植物、動物

(理科)

(二時間)

第一 蛾形花(又は蝶形花)の分解せられたる圖を畫きて、これに各部の名稱を附記せよ

第二 植物の水分及び養液の流通する所は、莖の如何なる組織にある

か

第三 クリ(栗)、スヰセン及びシヤガタライモは、各、顯花植物の何科に屬するか

第四 偶數の趾を有する獸類二種を問ふ

第五 穀物を食する鳥の胃の構造を記せ

第六 世代輪回と稱するは、動物發生上の如何なる現象なるか

物理

(文技科)

(二時間)

第一 氷は何故水面に浮上するか

第二 火勢が風に由て増加するは何故なるか

同

(理科)

(二時間)

第一 手を水中に没入すれば濕潤するに水銀中に入れたる手は否らざる理如何

第二 薄き空洞金屬球は何故水面に浮ぶか
第三 催雨の天に晴雨計の降下するは如何

化學

(文技科)

(二時間)

第一 空氣の單一なる物質にあらざることとを證し其常成分の割合を記せ

第二 炭水化物(又は含水炭素)とは如何

同

(理科)

(三時間)

第一 密閉せる器内にある等容積の水素と酸素の混合物に點火したる後器内に残る物質を記せ

第二 硫酸に就て知れる所を記せ

第三 化學作用により脂肪及び油より製せらるる主要品と其製法の概畧を記せ

生理

(理科)

(二時間)

第一 體内に生ずる老廢物の種類及びこれを排泄する諸器官を記せ

第二 脊髓の構造及び是より神經の發出する狀を記せ

第三 淋巴の性状及びこれと血液との關係を問ふ

裁縫科

(技藝科)

(二時間)

筆答

第一 並幅二丈五尺の用布にて十番馬乗袴の裁ち方を圖解し之に各部の名稱及び寸法を記入し又其の積り方の算法をも記載すべし

第二 幅一尺六寸長さ一丈六尺の用布を以て本裁女物袷羽織の表一枚を裁たんとすその裁ち方及び積り方は如何にすべきか且つ各部の名稱寸法を圖中に記入すべし

實地 (技藝科)

(三時間)

一 與ふる所の材料品を以て本裁男物單羽織の左半身を裁縫すべし

圖畫科 (技藝科)

(三時間)

毛筆畫

第一 墨畫

花卉

二葉

第二 線畫

自身の左手を寫生すべし

一葉

但し任意の一指を屈くるを要す

明治四十一年入學試驗問題

國語科

文法

(文科)

(二時間)

第一 動詞の音便につきて知れることを記せよ

第二 左の施線の語の異同を説け

(イ) 花は咲きけりや 珍らしやこの花

(ロ) 心あらむ人に見せばや 心あてに折らばや折らむ

文法

(理技科)

(二時間)

第一 係結につきて知れることを記せよ

第二 讀まるといふ語のあらゆる意義を説け

解釋

(文科)

(三時間)

左の文中まづ傍線を引きたる辭句を抜き出して略解し次に全文の大

意を釋くべし。

(一) 家居のつきづきしくあらまほしきこそ假の宿りとは思へど興あるものなれよき人ののどやかに住みなしたる所はさし入りたる月の色も一きはしみじみと見ゆるぞかし今めかしくきららかならねど木立物ふりてわざとならぬ庭の草も心あるさまに簀子すいがいの便りをかしくうちある調度も昔おほえてやすらかなるこそ心にくしと見ゆれ多くのかくみの心を盡してみがきたて唐のやまどの珍らしくえならぬ調度ども並へおき前栽の草木まで心のままならず作りなせるは見る目も苦しくいとわびし

(二) 春秋のあはれをいひ月花などを詠めし歌も唯其のままにうつしとりてさながら見るやうにあるは何のをかきき節もなけれどかの詞つづき巧によくいひかなへたりと見ゆるよりは感深うして捨て難

くおほゆ今思ひ出だしたる歌一二首を以て例していはば

ひさかたの光のとけき春の日にしづ心なく花のちるらむ

夕されば門田の稻葉音づれてあしのまるやに秋風ぞ吹く

是等の歌不盡の景色をうつしてさながら目に見ゆる如くおほゆ折にふれてこれを吟詠せば襟懐を清くし塵想もけぬべし我が徒も吟詠をたすけ性情を養ふにはたよりなきにあらず

解釋

(理技科)

(二時間)

左の文中まづ傍線をひきたる辭句を抜き出して讀方並に略解をなし次に全文の大意を釋くべし

人誰れか吾が郷の洵美を謂はざる者あらむ青が島は南洋浩渺の間なる一頃の噴火島なり轟然爆裂し火光閃々として天日を焼き石を降らし灰を散して島中の人畜殆ど斃れ盡きぬ僅に十數人の船を懸

して災を八丈島に逃れたるあるのみなりき而も此の數十人竟に其の噴火島たる故郷を遺却せず火の熄むを待つ事十三年乃ち八丈島を出でて欣々として其の多災なる故郷に歸りきといふ……

然れども日本人が日本江山の洵美を謂ふは何ぞ嘗に其の吾が郷に在る以てならむや實に絶對に日本江山の洵美なるものあるを以てのみ見よ外邦の客皆日本を以て宛然たる現世界における極樂土となし低回去る能はざるにあらずや……想ふに浩々たる造化其の天工の極を日本國に鍾む是れ日本風景の渾圓球上他に殊なる所以なり

作文

(文理技三科)

(二時間)

一 寫眞

右は普通漢字交り文體に認むべし

漢文科

(文科)

(二時間)

第一 自后妃、至於士庶人之妻、其必勉於積善、以成内助之美、婦人善德柔順、貞靜樂乎和平、無乖戾也、存乎寬洪、無忌嫉也、敦乎仁慈、無殘害也、執禮秉義、無縱越也、祇率先訓、無愆違也、

右送假名を施し、意義を解釋せよ

- 第二 僑居 童艸 濫觴 貞淑 盡瘁 木強 發軔 股栗 危坐 嗚咽

右讀方並に解釋を施せ

數學科

(文技科)

(二時間)

第一 $\frac{3+1}{7+\frac{1}{16}}$ ヲ小數ニ化シ小數第五位マデ正シク算出セヨ

第二 一「キロメートル」ヲ概算シテ九町トスル時ハ三千「キロメートル」ニ付キ何程ノ誤差ヲ生ズルカ

第三 百四十間ヲ隔ツル兩所ヨリ甲乙二人相向ヒテ同時ニ發足シ毎分甲ハ四十間乙ハ三十間ノ速サニテ歩ミ休ムコトナク其間ヲ往復スル時ハ此二人ガ第三回目ニ出會フハ出發後幾分ニシテ其會點ハ甲ノ出發セシ所ヨリ幾間ノ所ナルカ

第四 或小學校ノ生徒數ヲ數フルニ尋常科生徒ハ高等科生徒ノ二倍ニシテ男女ノ割合ヲ見ルニ尋常科ハ $\frac{1}{2}$ ト $\frac{1}{3}$ トノ如ク高等科ハ $\frac{1}{2}$ ト $\frac{1}{3}$ トノ如シト云フ然ル時ハ全校ヲ通ジテ兩生徒ノ割合何程ナルカ

第五 正三角形ノ各邊ヲ三等分シ相隣レル分點ヲ結ビ付ケテ作りタル六邊形ハ正六邊形ニシテ其面積ハ元ノ三角形ノ三分ノ二ニ等シキコトヲ證明セヨ

(二)ノ問題ニ就キテハ運算答ヲ記シ(三)(四)ノ問題ニ就キテハ解運算答ヲ記スベシ

同 算術 (理科)

(二時間)

第一 1000×12000 トノ間ニアルベキ整數ノ被乘數ハ何何ナルカ

第二 清水一立方「デシメートル」ノ重サヲ一「キログラム」トシテ清水一升ノ重サヲ四拾五入シテ勿ノ位マデ算出セヨ

第三 全長 300 町ノ時アリ今毎時上リ路ニハ 24 町下リ路ニハ 40 町ノ速サニテ之ヲ越ユルニ往路ニ十時間半ヲ費ス時ハ歸路ニハ幾時

問ヲ要スルカ

第四 或日ノ午後柱時計ガ七時四十分ヲ指ス時刻ニ置時計ハ七時三十分ヲ指シ翌朝柱時計ガ五時十六分ヲ指ス時刻ニ置時計ハ五時十分ヲ指セリ然ル時ハ其朝置時計ガ十時ヲ指ス時刻ニ柱時計ハ何時ヲ指スカ

第五 某會社株券五十圓ノ中三十二圓五十錢拂込ミノモノヲ六十二圓五十錢ノ時價ニテ買ヒ入レ直ニ殘額拂込ミノ上毎年一割二分ノ利益配當ヲ受クル時ハ出金ニ對シテ年幾未ノ利益ニ當ルカ
各問題ニハ解、運算答ヲ記スベシ

理科

植物、動物、生理 (文技科)

(二時間)

第一 松杉科植物の莖の組織上の特徴を問ふ

第二 顕花植物の種子と隠花植物の胞子との別を記せ

第三 節脚動物(又は節足動物)の綱の名稱及び其の特徴たる脚の數を記せ

第四 鳥類獸類とは、骨格の構造上に如何なる特徴を有するか

第五 人の乳齒(一時齒)及び成齒(永久齒)の員數と種類とを記せ

第六 心臟に出入する重なる脈管の種類及び其の數を記せ

植物動物 (理科)

(二時間)

第一 菊科植物中、唯舌狀瓣のみより成れる花と、筒狀瓣のみより成れる花の各一例を舉げよ

第二 顕花植物の莖と根との構造上の區別を問ふ

第三 澱粉の製成せらるゝ場所及び其の貯藏所に運搬せらるゝ方法

を記せ

第四 ハマグリノ貝殻を畫きて、これに其の各部の名稱を附記せよ

第五 牛と馬の足骨の構造を記せ

第六 寄生動物及び共生動物の例を擧げて、其の生活法の區別を記せ

生理 (理科) (一時間)

第一 頭蓋骨を構成せる骨の種類及び其の數を記せ

第二 脂肪の消化及び吸収せらるゝ狀を記せ

第三 視神經の發出する腦の局處及び其の纖維の兩眼に分布せらる

・狀を記せ

物理 (文技科) (二時間)

第一 火熨に木柄を附するの理由を説明せよ

第二 障子を張るに糊を用ゆるの理由を説明せよ

同 (理科) (二時間)

第一 光に對する凸れんすと凹れんすとの區別を圖解せよ

第二 避雷針に就て知れる所を記せ

第三 吸上ぼんぶに就て知れる所を記せ (文技科) (一時間)

化學 (文技科) (一時間)

第一 物の燃ゆると云ふは如何なることか

第二 銅、銀、水銀及び鉛の化合物中最も普通なるもの一種を撰み、其性

質及び用途を記すべし

同 (理科) (三時間)

第一 物の化合には如何なる規則ありや

第二 磷の二種類の差異を記せ

第三 鉛の性質を記せ

第四 アルコール(酒精)は如何なる物より製し得るか

裁縫科

筆答

(技藝科)

(二時間)

第一 幅二尺の片面物にて大人ツボン下(紐附)の裁ち方を圖解し之に各部の名稱寸法を詳細に記入し且つ用布の總丈をも記載すべし

第二 左の二項を明記すべし

(イ) 大人男袴腰立糸掛の圖解及び其順序

(ロ) 小供綿入の肩揚腰揚の仕方並にその位置

實地

(技藝科)

(三時間)

一 與ふる所の材料品にて本裁女袴左の片袖及び片裙を縫ふべし但し其寸法は袖を實物二分の一とし裙を三分襞とす

圖畫科

毛筆畫

(技藝科)

(二時間)

第一 墨畫

梅

(二葉)

第二 線畫

自身の左手を(拇指を屈して)寫す可し(一葉)

一、專修科入學試驗問題

一、家事專修科問題

明治三十年入學試驗

國語科

(二時間)

第一 左の動詞は何行何段の活用なるか

教 飢 肥 賜 辨

第二 「花は散りにき」といふ文に於て花こそと係辭の變りたる時の結び如何

第三 左の文を解釋すべし

寛平は殊に博く學ばせ給ひけるにや周易の深き道をも愛成といふ博士に愛けさせ給ひき延喜の御事は左右にあたはず菅氏輔佐し奉られきその後も紀納言善相公等の名儒ありしかば文道の盛なりしことも上古に及べりき

第四 作文 (普通文)

衣服

歴史科

(一時間)

第一 物部蘇我兩權門の争ヒハイカナル事ニヨリテ破裂シタリシカ

第二 新田義貞ガ鎌倉ヲ滅ボシ、ハ兵ヲ起シテヨリ僅ニ半月ニ過ギ

ズ北條氏ハ何ガ故ニ斯ノ如ク容易ニ滅ボサル、ニ至レルモノカ

第三 徳川幕府ノ末葉ニ於ケル三奇士ノ事蹟ニツキテ知ル所ヲ記ス
ベシ

地理科

(一時間)

第一 利根川 吉野川 筑後川ニ就キテ知レル所ヲ記セ

第二 本邦織物ノ主要ナル産地ヲ列記セヨ

第三 左記ノ都邑ニ就キテ知レル所ヲ記述セヨ
 前橋 淡水 仁川 重慶 ボンベイ マルセイユ
 バンクローバー コンスタンチノープル

數學科

(二時間)

- 第一 乘法トハ如何ナルモノナリヤ
- 第二 原價若干ノ品物アリ賣價ノ二割ヲ減ズルモ尙ホ原價ニ等シト云フ賣價ハ原價ヨリ何程ノ割合ダケ高キカ
- 第三 次ノ式ニ就キテ運算スベシ

$$\begin{array}{r} 3+15 \\ 29-8 \end{array} + \begin{array}{r} 13-7 \\ 32+17 \end{array}$$
- 第四 並幅九尺五寸ニ要スル衣服ノ雛形ヲ縮尺三分ノ一ニ作ルトキハ並幅何尺何寸程ヲ要スルカ

理科

(二時間)

- 第一 双子葉植物ト單子葉植物トノ區別ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- 第二 血管系及ビ神経系ノ位置ニ關シテ有脊椎動物ハ無脊椎動物ト如何ナル差異ヲ有スルカ
- 第三 太陽出沒ノ前後ニ於テハ直接光ヲ見ザルモ尙ホ明ナルヲ覺フ其理如何
- 第四 通常人ノ云フ所ニ依レバ九十五六度ノ温度ニ至レバ大暑ナルニ其候官報ニ就テ見レバ僅カニ三十五六度ナリ其大差アル所以如何
- 第五 清澄ナル井水ヲ久シク煮沸スレバ漸ク汚濁ヲ生シ器底ニ固体ノ附著スルヲ見ルベシ其理如何

第六 定量ノ石灰及鐵片ヲ空氣中ニ放置スレバ各其重量ヲ増加シ結晶炭酸ソーダヲ空氣中ニ放置スレバ其重量ヲ減少ス其理如何

家事科

(衣食住)

(一時間)

第一 住所ノ撰擇及ビ家屋ノ建築ニ關シテ衛生上心得ベキ要件ヲ列舉セス

第二 裁縫ノ女子ニ必要ナル所以及ビ之ヲ學習スルニ際シテ注意スベキ事項ヲ詳記スベシ

同

(裁縫)

(一時間)

半幅(並幅モノ)長サ二尺ノ切ニテ出ふき一寸ノ襷形ヲ縫ヒ堅襷ヲ本紵ニテスベシ

明治三十五年入學試験

國語科

(二時間)

第一 左ノ文字に和訓を附して其ノ活用を示せ

覺 詭 教 遠

第二 動詞ノ活用中いかなる段が名詞となるか例をあけて説明せよ

第三 左ノ文句に誤謬あらば正せ

織物は糸にて製す物なり

高聲に談話を禁す

第四 解釋

家治將軍の立つや前代の寵臣田沼意次幕政を専らにし上は苞苴公

行し下は潜奢俗を成し廉恥地を拂ひ姦猾時に乘し紀綱大いに紊れ
て如何ともすること能はざりしか家齊將軍職を紹ぐに及びて松平
定信を擧げて執政となす是に於て中外に告諭し宿弊を改め新政を
布きしかば僅に浹旬にして都鄙安堵し朝野觀を改めにき

第五 作文
寸陰を惜む説

數學科

(二時間)

第一 白米四斗ヲ買ヒ五圓紙幣ヲ拂ヒタルニ尙白米二斗ノ價ト金拾
三錢トヲ不足スト云フ白米一斗ノ價何程ナルカ

第二 大陰曆一ヶ月ハ二九、五五〇五八八五日ナリ之ヲ日時分秒ニ直
セ

第三 次式ヲ運算セヨ

$$\left(\frac{31-23}{4} - \frac{1}{8}\right) + \left(\frac{31-23}{5} - \frac{1}{4}\right)$$

第四 鯨尺ニテ二丈八尺ノ價六圓六十五錢ノ反物曲尺ニテ七尺五寸
切ノ價幾何ニ當ルカ

第五 金一千五百圓ヲ以テ某會社株券ヲ券面五十圓ニ付七十五圓ノ
時價ニテ買ヒ入レ毎半年ニ年一割二分ノ割合ニテ利益配當ヲ受ク
ルトキハ毎半年ノ配當金何程ナルカ

(注意) (四)ハ式解運算答ヲ記シ (二)ハ運算答ヲ記スベシ

理科

(二時間)

博物

第一 双子葉植物ト單子葉植物トハ其ノ莖ノ構造上ニ如何ナル區別

アルカ

第二 昆蟲ノ完全變態ヲ經過スル狀ヲ記セ

第三 肺臟及ビ腎臟ノ固有ナル生理上ノ作用ヲ問フ

物理

第一 凝膠力ト粘着力トノ區別如何

第二 風爐ノ水ハ火ハ下方ヨリ加フルモ上方ヨリ温マル其理如何

化學

第一 燃燒ト呼吸トヲ比較セヨ

第二 硬水ト軟水ノ別ヲ記セ

裁縫科

(二時間)

第一 幅一尺丈四丈九尺ノ片面物ヲ以テ本裁女袷並ニ本裁被布各表

一枚ヲ裁合サントスルニ袖丈一尺六寸裕ノ身丈四尺裁切トシテ其

他モ普通寸法ニセバ如何ナル積リ方ニシテ可ナルカ

右ノ裁チ方ヲ圖解シ之ニ名稱寸法ヲ附シ及其積リ方ノ算式ヲ記

セ

第二 本裁綿入女物ノ左ノ片袖ヲ縫フベシ

但シ寸法ハ實物ノ二分ノ一トス

明治三十九年家事專修科入學試驗問題

國語科

(二時間)

解釋

(注意) 〔全篇ヲ通釋シ別ニ傍線ヲ引キタル字句ヲ〕
〔抜キ出シテ其ノ讀方及ヒ略解ヲ附スベシ〕

皇后陛下の御學問御盛徳等の事につき我等臣民の夙に傳承して感佩し奉る所固より枚擧に違あらず今ここに友人より傳聞し又嘗て御側に咫尺して伺ひ奉りたる事の一條を述ぶべし
福羽美靜君余に語りて曰はく陛下には夙に女四書を御閲讀遊ばされたるものと見えて御前に伺候する人人に女四書にかくかくの事ありと仰せらるることあり……………

抑々陛下の御盛徳は天稟の然らしむる所にして謂はゆる生知安行とも申し奉るべき事なるべけれども加ふるに御教育の御助ともなることありて聖益と聖といへる如き御聖徳に達したまへるものならむ即ちこの女四書の如きもその御教育の御助となりたるもの一つなるべしと察し奉らる

(細川男爵所記の文による)

文法

第一 き助動詞が動詞に連続する方法を詳記せよ

第二 左の語につきて知れることを記せ

さき

ばかり

まで

數學科

(三時間)

第一 羅紗一「ヤード」ノ價五圓六十錢ナル時ハ此羅紗鯨尺一尺ノ價何程ニ當ルカ但一「ヤード」ヲ3018尺トシテ計算セヨ

第二 次ニ掲クル三ツノ數ノ最小公倍数ヲ求メヨ

319, 377, 429.

第三 甲乙丙三人ノ農夫アリ田ヲ耕スニ甲ガ四坪ヲ耕ス間ニ乙ト丙トハ協力シテ七坪ヲ耕シ乙ガ三坪ヲ耕ス間ニ丙ハ二坪ヲ耕ストス

レバ甲ガ一畝ヲ耕ス間ニ丙ハ何程ヲ耕スベキカ
第四 利子繰込ミノ期限ヲ一ケ年トシテ年利八分元金七百圓ノ二年
八ケ月間ノ複利ヲ求ム

第五 或人時計ト鎖トヲ買ヒタルニ其定價合セテ百二十五圓ナリシ
ガ時計ハ一割鎖ハ五分ノ直下ダヲナシタルガタメ都合百十四圓六
十錢ヲ拂ヘリト云フ時計及鎖ノ買價各如何

(二)ノ問題ニ就キテハ運算答ヲ記シ其他ノ問題ニ就キテハ運算解答
ヲ記スベシ

理科

(二時間)

第一 雙子葉植物と單子葉植物とは花の構造上に如何なる區別を有す

第二 動物界中最大なる部門の名稱を擧げよ

第三 肺臟及び腎臟の生理作用を記せ

第四 沸騰點と壓力との關係如何

第五 密閉したる器中にて木炭又は硫黄を燃やしたる後器内に存す
る總ての物質を記せ

裁縫科

(三時間)

第一 幅一尺六寸五分の表地を以て女綿入無垢一枚を普通寸法に裁
つには其用布の總丈何程を要するか

右の裁ち方を圖解し之に各部の名稱及び寸法を記入すべし

第二 與ふる所の材料品にて四つ身綿入の左の前身を裁縫せよ

但し其寸法は丈を實物の二分の一とし幅を實物通りとし紙を五分となすべし

一、國語漢文專修科問題

明治三十二年入學試験

國語科

文法

第一 動詞の語尾は五十音の二行に跨りては活かすとは如何なることなるか二個以上の例を擧げて説明せよ

第二 左の文章中にある代名詞の右傍には「印」を付し動詞の右傍には「印」を付せよ

その君を幽するは彼が忍ぶ能はざる所なり

第三 左の文章に於ける文法上の誤謬を正し且その理由を説明せよ
氏は幼よりいたく勵み學びたれば遂に博士の學位を得しといふされば志あるものは曷ぞ寸陰をも空しく費すへからず

解釋

第一 後白河院の御時年中行事を繪にかゝれて御賞翫のあまり松殿(基房)へ進せられたりけりこまかに御覽して僻事ある所々に押紙を

して其の誤を御自筆にてしるしつけて返進せられたりけるを法皇御覽じて繪をかきなほさるべきに勅諭に此の人の自筆に押紙したるいかかばなち棄て、繪を直すことあるべき此の事によりて此の繪すでに重寶となりたりとて蓮華王院の寶藏にこめられにけり其の押紙今に在りといふいみじかりけり

第二 此の宮は攝政(良經殿)の姫君にてもものしたまへば歌の道にもいとかしこうわたらせ給へど大方奥深うしめやかに重き御本上にてはかなきことをもたやすく洩らさせ給はず御琴なども限りなきねをひきとり給へれとをさくかきたて給ふよもなく餘りなるまでうもれたる御もてなしを佐渡院も限りなき御こゝろさしの中にあかすなむ思ひ聞こわさせ給ひける

(右語意及ヒ文義ノ解釋)

- 第三 (一)調度 (二)厨子 (三)渡殿 (四)藏人ノ頭 (五)御加持

(右讀方及ヒ略解)

同

(作文)

(三時間)

第一 文章ノ効用

(普通漢字交リ文)

第二 人の父を壽する文

(手紙の文)

(三時間)

漢文科

第一 司馬温公嘗云學者讀書少下能自一卷讀至三卷末者上往往從中或從末隨意讀起又不能終篇光性最專猶常患如此

第二 人附書信不可開拆沈滯與人並坐不可窺人私書凡借人物不可損壞不可還凡喫飲食不可揀擇去取與人同處不可自擇便利見

人富貴不可_レ歎羨詆毀_一

第三 水魚交 洒掃應對 請從_レ隗始 何須_二屋上架_一屋

寧爲_二鷄口_一無_レ爲_二牛後_一

明治三十四年入學試験

國語科 (解釋) (三時間)

第一 藥師寺の塔は天武天皇の御宇の草創のまゝにして屋上の銘文は舍人親王の御作と聞ゆるがいかて之を見てしがなと思へど六層の塔の上風も烈しさに父母の遺体を思はずやと彦輔ぬしのいさめいなび難くてためらしかど再び來るべき身にもあらねば折しも小雨ふり出でたれと彼のぬしにはことも知らせでねんじて登りぬ小

法師に案内させつゝすばき所をくゞり行く六重の屋根に窓あり下より蓋をおしあげ屋のふちに手をかけ東口は春日西には生駒が嶽などさやかに見えて雨中の眺望またなき折からなりき

第二 (イ)賢所 (ロ)節會 (ハ)檜葺 (ニ)公方

第三 さては諸第の郎黨ござんなれ御させながとつて肩になげかけ

同 (文法) (三時間)

第一 左ノ動詞ニツキ各二様ノ活用ヲ舉ゲ且双方ノ意義ノ變アル所ヲ略述セヨ

立 越 起 終 來

第二 過去ノ助動詞キが動詞ノ加行變格佐行變格ニ連續スル法ハ如何表ト例トヲ舉ゲテ簡單ニ説明セヨ

第三 左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)たとひ死すれども義理をば失はず

(ロ)己を正しふして然るべき後人を責むるべし

同

(作文)

(二時間)

精神の鍛練

左ノ一節ヲ文ノハシメニ置キテ

人は生れなからにして賢なるものにあらず皆幼時より苦痛を嘗めて精神を鍛練せしに由るこれ猶刀劍の銳利は鍛冶の精神によるが如し

漢文科

(三時間)

第一 大猷公新造橋少不稱意願侍臣松平信綱曰宜命有司少加穹

隆信綱取腰扇開二摺以爲準公曰左高矣又開二摺曰可矣乃呼匠監一舉扇指示使領其意

第二 烈祖之奠府江戸也諸侯皆朝賜第邸子郭内商賈日益麤集坊肆年增都下方四里屋舍鱗次櫛比至有土一舛之諺

第三 相與驩爲刎頸之交一旦推及骨肉後必噬臍不若且紆之啓其自新之路

三、地理歴史專修科問題

明治三十三年入學試験

國語科

(三時間)

第一 左の動詞の語尾の活用をしるせ

延ぶ 強ふ 任す 開く

第二 動詞の連用法とは如何なることなるか例を擧げて説明せよ

第三 左の文章に於ける文法上の誤謬を正し且その理由を説明せよ

小成に安ずるの徒はいかでかゝる重任を負ふに堪ゆべけれ

第四 解釋

夫れ氣概は溢るゝばかりなるに身体の健康これに伴はざる人は概ね性急なる者なり賢丸(松平定信の幼名)はかゝる人の標本とぞいふべかりける少しく意に満たぬ事あれば烈火の如く怒り猛りて止まる所を知らず儒臣の大塚また近侍の人々など百方苦心して或は婉

曲に諷し或は顔を干して直諫せし事度重なりければ賢丸も漸く其の累徳を悟りいたく自づから抑へて遂に弱冠の頃には全く豹變するに至れり已れに克つは敵に捷つよりも難し克己の教に従ふこそ眞の勇といふべけれ

同

(作文)

(二時間)

前途ノ志望ヲ述ブ 漢字交リ文

歴史科

(三時間)

第一 徳川吉宗(八代將軍)ノ中興事業ヲ述ブベシ

第二 我ガ國立憲政体ノ成立セル次第ヲ問フ

第三 宋朝ノ沿革ヲ略叙スベシ

- 第四 ローマ法王ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- 第五 現世紀間ニ於ケルロシア、トルコ兩國ノ關係ヲ問フ

地理科

(二時間)

- 第一 利根川ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- 第二 本邦織物ノ重要産地ヲ列擧セヨ
- 第三 清國人ノ氣質ヲ畧述セヨ
- 第四 ドイツ國ノ工藝ニ就キテ大要ヲ述ヘヨ
- 第五 左記ノ都邑ニ就キテ知レル所ヲ記セ
 門司 海防 仁川 厦門
 ヨハチスブルグ ベナレス コンスタンチノーブル
 モントリオール ブエノスアイレス

アンペール(アントエルプ)

明治三十五年入學試験

國語科

(二時間)

- 第一 左の文字に和訓を附して其の活用を示せ
 和 崩 誣 整
- 第二 動詞の活用中いかなる段が形審法となるか例をあげて説明せよ
- 第三 押れれと失せしとの語法上の區別を説明せよ
- 第四 左の文章に誤謬あらば正せ
 我が妹は既に普通科を卒へり是れより専ら繪畫を習はさむ
- 第五 解釋

益軒先生常に門人に語りて曰く天人を生し其才によりて人に益あることをなさしめ玉ふ上たる人の世を經濟し給ふより下一材一藝ある者に至るまで其のほどくにつきて人に益ある事をなすは各其の天職なりもし嘉穀を食ひ白日を度り徒に一生を過さんば天の思徳に悖るなりみつから他の材藝なし幸に古人の書を読み少しの文字を作ることを知り得ぬれば是を以て庸俗を曉諭して小補にもなりなは素餐の罪を少しは免るゝよすかともなりぬべしとて一生の間著述に筆をとらめず簣を易ふるまで致々として倦み給はさり

同

〔作藝〕

〔三時間〕

友人の寫眞の上に題す

歴史科

〔三時間〕

- 第一 藤原氏攝生時代に女流文學者の多く出でし所以を問ふ
- 第二 左記の地にて起りし歴史上著名の事蹟を記せ
博多 嚴島
- 第三 條約改正につきて知れる所を述べよ

同

〔東洋史〕

- 第一 周の東遷とは如何
- 第二 唐と高麗百濟新羅との關係を問ふ
- 第三 香港の英領となりし所以を問ふ

同

〔西洋史〕

- 第一 スバルタの國民教育制度に就て知る所を記せ
- 第二 チュートン人の羅馬帝國内に侵入せし時其一種たる西ゴス人は何れの地方を占領せしや
- 第三 一八三〇年佛國の七月革命とは如何及び他の歐洲諸國に及ぼしたる其影響の著大なるものを問ふ

地理科

(二時間)

- 第一 關東平野に就きて知れる所を記せ
- 第二 本邦の重なる工藝品を挙げ合せて其産地を記載せよ
- 第三 横濱よりマルセイユに航する間の重要なる港を記せ
- 第四 ドイツ國の政治に就きて大要を述べよ
- 第五 左記の都邑に就きて知れる所を記せ

有田 釜山 ラングーン オデッサ マンチュスター
 シドニー セントルイス リオデジヤネーロ

明治四十一年地理歴史專修科入學試験問題

國語科

(二時間)

解釋

元弘建武の亂起りしより婦女の貞操高きもの史上に其の名を顯はせり室町時代に至りて風教は益衰へたりしかどもなほ節烈の婦人に乏しからざりき山名氏清の妻の如きは殊に鮮々たるものなりき抑々王朝衰世には淫靡の婦人多く武家の衰世には節烈の婦人多きも

のは何ぞや蓋し王朝の衰世は治世の鳩毒に罹りたる者にして淫靡の婦人を生じ武家の衰世には腥風血雨の外患に侵撃せられたる者なればこれにより益々婦人の志操を磨勵して此の如き烈婦を生じたる者なり然れども日本婦人の天稟の卓越なるにあらずは安んぞ能くかくの如きを得む實に日本婦人の美質は此の亂世に於て明に見るを得たり歳寒うしてしかる後松柏のおくれ凋むを知るとは此のことなり

(注意) 右文の大意を通釋し、後、傍線を引きたる字句に讀方および略解を附くべし

文法

第一 左の文の漢字には訓假名をつけ且活用する語はその活用を記せ權折れ舟傾きて渦巻く水底に沈みぬ

(第二) 左の文に誤あらば正せ

志いかに堅くも身體弱ければ目的を達し得まじ

歴史科

(二時間)

本邦

第一 建武中興事業の成立并其の廢頽の次第を述べよ

第二 左記の地名并に人名につきて知れる所を記せ

- 安土 島原 衣川 猿島 種子島
- 阿倍比羅夫 水野忠邦 林子平
- 北條早雲 新井白石

第三 左記の事實の年代を問ふ(但し紀元何年と答ふべし)
蘇我氏の滅亡 奈良奠都

南北朝の合一 豊臣秀吉の天下一統
第四 日露兩國間のポーツマス媾和條約の要項を記せ

外國

第一 七年戦争に付て知る所を記るせ、
第二 左の人名及び地名に關し知る所を記るせ、

- (1) ペリクレス
- (2) ガリバルデー
- (3) リンコルン
- (4) プレプナ
- (5) クロムウエル
- (6) ゴルチャコフ

- (7) ザマ
 - (8) 文天祥
 - (9) 曾國藩
 - (10) 張騫
- 第三 支那戰國時代なる秦、楚、燕三國の位置を説明せよ、
第四 左の年代を問ふ
(1)「ユロンプス」の亞米利加を發見したる年代
(2) 普佛戦争の年代

地理科

(三時間)

第一 十州島(北海道本島)の地勢を述べよ

第二 我が國の養蠶業に就きて記せ

第三 ドイツ國の政體に就きて述べよ

第四 ロシア國の住民に就きて記せ

第五 左記の地に就きて述べよ

鎮南浦 有明海 ゼノア 鐵嶺 メルポールン

漢口 ブエノスアイレス アレクサンドリア

テヘラン ユーコン河

理科

(三時間)

博物

第一 葉脈及び花の構造は、單子葉植物と雙子葉植物とに従つて、如何なる區別あるか。

第二 植物の同化作用とは何ぞ。

第三 昆蟲類の完全變態と不全變態との別を問ふ。

第四 呼吸作用の要は何にあるか。

第五 澱粉を消化するに必要な消化液の種類を問ふ。

物理

(二時間)

第一 机上の紙片に銅貨を置き紙を急に引かば銅貨は前の所に止まる其理如何

第二 空氣に浮力を有するの例一二を挙げよ

化學

(二時間)

第一 左のものゝ性質を記せ

- 第二 (イ) 炭酸瓦斯 (ロ) 亞硫酸瓦斯 (ハ) アムモニア
 王水とは如何なるものか

四、國語體操專修科問題

明治三十八年入學試験

國語科

(二時間)

文法

左の文を單語に分解して其品詞を記し且誤あらば訂正せよ

- (イ) 庭前の櫻花雨に濕ひていと美しふ見えたり
 (ロ) よく困難にたえて素志を貫く者近來たへてなし

解釋

第一 このおとどはただ今の和歌にきはめたる人におはしますそれ
 にはかばかしくもなからむ事をおもなく打出でたらむはあらむよ
 りはいみしくわろかるべしさりとてやむことなき人のかくせめ給
 ふことをすさまじくてやまむも便なかるべし

第二 一條院御時道長大納言にておはせしが内覽の宣旨をかうふり
 て左大臣までいたられしが三條の御時にや關白して後一條の御世
 のはじめ外祖にて攝政せらる

同

(作文)

(二時間)

筆

漢文科

(三時間)

第一 朱舜水至安南。日館人供張甚盛。舜水從容不撓。安南王召見。欲令拜而長揖。不。屈其人。或以爲不。解。事。畫。砂。作。一。拜。字。以。見。之。舜。水。即。加。不。字。于。其。上。於。是。怒。囚。之。

右送假名ヲ施シ意義ヲ通解セヨ。圈點ヲ施シタル文字ハ特ニ詳解ヲ要ス。

第二 不世出 安堵如故 夙興夜寐

運籌策帷帳之中決勝於千里之外吾不如子房

右讀ミ方ト意義トヲ問フ

歴史科

(三時間)

本邦史

第一 平安時代ニ於テ武人ノ興起セシ所以ヲ問フ

第二 廢藩置縣ニツキテ知レル所ヲ記セ

外國史

第一 インドガ英國ノ領地トナリシ次第ヲ略述セヨ

第二 ビーター大帝ノ事蹟ヲ記セ

地理科

(三時間)

第二 我ガ國ノ兵備ニ就キテ記セ

第二 左ノ地名ニ就キテ知レル所ヲ記セ

- (イ) 揚子江 (ロ) ウラル山脈 (ハ) サンフランシスコ
- (ニ) サイゴン (ホ) 門司 (ヘ) バナマ (ト) マダガスカル

(チ) シアバ

(リ) モスコ

(ヌ) 奉天

明治四十年國語體操專修科入學試驗問題

國語科

文法

(一時間)

(第一) 左の文を單語に分解してその品詞の名稱を記し且活用する語はその段法をも示せ

今朝は雲霧なごりなく晴れて海山はるく見渡さる

(第二) 左の語の異同を説明せよ

(イ) 有らなむ 有りなむ
(ロ) 見るとも 見れども

解釋

(三時間)

關原懷古

關屋の跡は今さだかならず……慶長の昔を思ひやればいと哀なりえも
さりやらすうち休らひて此方彼方見めぐらすに其のかみの事おぼえ
て何となくさしぐまるるも悲し石田三成が豊臣氏の衰をいたく歎き
て關西の大名共をかたらひさばかり勢を振ひけむ徳川氏を討ち滅さ
むと思ひたちけむををしさよ故太閤の御魂もあまがけりていかに其
の志を嬉しと思ひ給ひけむ軍の勝敗は時の運にありて戰の罪にあら
ずとこそいへ豊臣氏の衰へ行くべき時の來れるはせん方なしさりと
てはた徳川氏のこの度の軍不義なりとはいふ可らず居ながら關西の

軍を迎へて待ち戦ふべきにあらねばこゝまでうちのほりけむさるか
たにいみじき智略といひつべし……あはれうち滅されつる兵の心よ
佛のいふらむ妄執ともなりぬべし三成が心さばかりと思ひやられてい
とこそいたましけれ

(注意) 右文の大意を通釋し特に傍線を引きたる辭を抜き出して
略解を附くべし

漢文科

(二時間)

解釋

(第一) 菅原道眞爲左大臣爲時平所忌。三善清行、與道眞善、屢託日者言、諫公避
位。公不用。清行曰、離朱之眼、不見睫上塵。仲尼之才、難知匱中物。果羅貶謫
之禍。

右送假名ヲ施シ傍線ヲ附シタル語句ノミヲ解釋スベシ

第一 左ノ句ノ差別ヲ説明セヨ

好茶不嗜酒 不好茶嗜酒

歴史科

(二時間)

第一 奈良時代に於ける歴史并に地誌の撰修につきて記せ

第二 左記の人々の事蹟の概略を問ふ

松平定信 紀貫之 徳川光國

第三 鴉片戦争につきて知れる所を記せ

第四 歐洲中世の十字軍の原因并に結果を問ふ

地理科

(二時間)

第一 四國島の河流に就きて述べよ

第二 清國十八省の名を列舉せよ

第三 左記の地に就きて述べよ

岩見澤 開城 アルプ山脈 シドニー ケーптаウン

五、數學物理化學專修科問題

明治三十七年入學試験

國語科

(三時間)

解釋

世に献身的精神の力ばかり強きものはあらしナイチンゲール女史は實に纖弱なる一婦人にして幾千の益荒夫を小兒の如くになづけ

たり彼等は女史が彼等の爲に盡さむとて富家の安逸を棄て團樂の快樂を棄て一身を犠牲として砲煙鮮血疫疾の醜釀する戦地に來れるを知れりされは彼等が歎美敬慕して措く能はざりしも宜なりけり嗚呼光明の入る所は暗黒も亦容を變ずナイチンゲール女史一度來りてスタタリーの病院は忽ち聖會堂の如くなれり

作文

毀譽の説

數学科

(三時間)

第一 一工事アリ工夫若干人ヲ以テ六日間ニ成就セシムベキ豫定ナリシニ工夫四人ヲ減ゼシタメニ成工ノ期日三日後レタリト云フ最初幾人ノ工夫アリシカ

第二 或會社ニ於テ賞與金一千圓ヲ俸給ニ應ジテ六人ノ役員ニ分與スルニ其俸給一人ハ七十五圓二人ハ各六十圓三人ハ各四十五圓ナリト云フ各幾何ノ賞與ヲ受クベキカ

第三 軍事公債額面五千圓ヲ百圓ニツキ八十八圓ノ時價ニテ賣リ上代金ヲ日歩一錢五厘ノ歩合ニテ銀行へ當座預トナス時ハ一ヶ年ノ利子幾何ニ減スベキカ

第四 或市街電氣鐵道ニ於テ線路ノ一端ヨリ毎日午前五時ニ第一回ノ電車ヲ發シ爾後五分時毎ニ次回ノ電車ヲ發シテ線路ヲ往復セシメ午後十時ニハ最終ノ電車ヲ歸着セシムル計畫ナリト云フ今各電車が一回ノ往復ニ四時間ヲ費スモノトスレバ此鐵道ニ於テ一日間ニ都合幾回ノ電車ヲ往復セシムルコトヲ得ルカ

第五 四捨五入ノ法ニヨリテ 5.47421 ノ平方根ノ小數二位マテ求

メヨ

第六 菱形トハ如何ナルモノヲ云フカ

菱形ノ對角線ハ互ニ直角ニ交ハルコトヲ證明セヨ

第七 與ヘラレタル圓ニ外接スル正三角形ヲ定規ト兩脚規トヲ用ヒテ作ル方法ヲ記シ且其理由ヲ述ベヨ

(注意) 一ヨリ四マデニツキテハ運算解答ヲ記シ問題五ニツキテハ運算答ヲ記スベシ

理科

(三時間)

博物

第一 花ノ構造上双子葉植物ノ特徴ト成ル點ヲ問フ

第二 節足動物中甲殼類ト昆蟲類トヲ區別スベキ主要ノ諸點ヲ記セ

第三 淋巴管ノ作用ヲ記セ

物理

第一 電車ノ走リ出スルハ其中ノ人皆ナ後方ニ倒レントス其理如何

第二 曉方戸ノ小孔ニ對スル障子ニ庭園ノ樹木ガ倒ニ映ス其理如何

第三 吾人身体ニ風ヲ受クレバ冷涼ヲ覺ユ其理如何

化學

第一 炭火ヲ鐵板上ニ置カハ速カニ消ユルハ何故ナリヤ

第二 硫酸ノ性質ヲ記セ

第三 石鹼ニ就テ知レル所ヲ記セ

三、選科問題

明治二十八年入學試験

國語科

(文法)

(解釋)

第一 求といふ詞の活用如何

第二 疑辭にやとかとありその別如何

第三 左の文字に仮名にて訓を施せ

悔 躍 障 騷 菜 操

第四 左の文章を解せよ

御國讓りの節會おこなはれて劔重内侍所わたしたてまつらるゝほ
とこそ理りなう心はそけれ新院のおりゐさせ給ひての春よませ給

ひけるとかや

そのもりのごものみやつこよそにしてはらはぬ庭に花を散りし
く今の世の事しけきにまされて院には参る人もなきそさびしげな
るかゝる折こそ人の心もあらはれぬへき

同

(作文)

鏡

普通文体ニテ書クベシ

友人に入學試験の目次を問合する文

書翰文(はがき)

漢文科

第一 不違農時穀不可勝食也數害不入涇池魚鼈不可勝食也斧斤
以時入山林材木不可勝用也

第二 王凝常居慄如也子弟非公服不見閭門之内如朝廷焉御家以四
教勤儉恭恕正家以四禮冠昏裘祭聖人之書及公服祭器不假垣屋什
物必堅朴曰無苟費也門巷果木必方列曰無苟亂也

歴史科

第一 遣唐使ニツキテ知レルトコロヲ述ベヨ

第二 足利時代ノ中葉ヨリ徳川時代ノ初世マデノ間ニ於ケル皇室尊
奉ノ事蹟ノ主ナルモノヲアゲヨ

第三 左ノ事蹟ヲ極メテ簡單ニ述ブベシ

(甲)山崎闇齋

(乙)可美眞手命

第四 左ヲ簡單ニ説明セヨ

(甲) 檢非違使
(乙) 參勤交代

地理科

- 第一 本邦ノ七大川ヲ列舉シ其ノ流域ニ就キテ知レル處ヲ記述セヨ
- 第二 左ノ都邑ニ就キテ所在地、人口、生業等ヲ記セ
根室 青森 水戸 徳島 法隆寺 福岡 松江
高岡 伏見 嚴原
- 第三 朝鮮國ノ行政區劃ニ就キテ知レル所ヲ記セ

數學科

- 第一 分數トハ如何ナルモノナルカ

第二 $3375 + 592 + 144 \times 6$
 $4727 - (2295 - 319 \times 5)$

- 第三 三數以上ノ最大公約數ヲ發見スル方法及ビ其ノ理由ヲ記述セ
- 第四 巡洋艦二隻ヲ製造スルニ其ノ價甲ハ乙ノ三倍ヨリ三十万二千圓少ナリ乙ハ總計ノ七分ノ三ナリ各ノ價幾何ナルカ
- 第五 面積トハ如何ナルモノナルカ
- 第六 二邊ト夾角ヲ等シウスルニツノ三角形ハ相等シト云フ此ノ証如何

理科

- 第一 高等ナル顯花植物ハ如何ナル機關ヨリ成ルカ又其ノ各機關ノ主用ハ如何

第二 鯨ト魚類ト異ル諸點及ビ蝠蝠ノ鳥類ニ非ザル諸點ヲ記セ

第三 (イ)富士山ノ如キ高山ニ於テハ通常ノ鑪鍋ヲ用ヒテ煮熟ノ米飯ヲ得ルコト難シト云フ其ノ理如何

(ロ)烟火打揚ヲ見ルニ其ノ近傍ニ於テハ火響殆ド同時ナルモ遠ザカ
ルニ從テ漸ク視聽ノ時ヲ異ニス其ノ理如何

第四 左記ノ物ヲ空氣中ニ放置スルトキ起ルベキ化學變化如何
生石灰 洗濯用炭酸ソーダ 濃硫酸

鐵 銅 鉛

家事科

第一 衣服ノ保存ニ關シ必要ナル事柄ヲ記スベシ

第二 日常ノ食事ニ献立ノ變化ヲ要スル所以ハ如何

第三 家屋ノ間取ニ就キ注意スベキ要點ヲ舉ゲヨ

裁縫科

第一 並幅二丈八尺五寸ニテ女單物ノ裁チ方積リ方ヲ記スベシ

但シ裁切袖丈一尺六寸五分丈四尺トス

第二 右同シ寸法ニテ女物羽織ノ裁チ方積リ方ヲ記シ裏切何尺ヲ要
スルヤヲモ記スベシ

第三 金巾切ニテ男物袷片袖ヲ縫ハシム(丸形六分)

習字科

第一 忠告善道 楷行草三体

第二 あさ日に勾ふ山櫻花

圖書科

毛筆畫

花卉

簡單ナル墨畫一枚

鉛筆畫

木蓮

音樂科

第一 音階

第二 小學唱歌集ノ中 螢の光

獨吟

第三 全 おぼろ

全

明治二十九年入學試驗

國語科

文法

第一 左の文字に國訓を付けよ

基 俵

羊

蚯蚓

藤

梢

耐

笛

奢 桶

第二 副詞の用方を示せ

第三 埋といふ働詞につきて自他を説明せよ

解釋

第四 左の文及歌について解釋すべし但し句解大意とも

深草のみかどの御時に藏人の頭にてよるひるなれつかうまつりけるを諒闇になりければさらに世にもましますして比叡の山に登りて

かしらおろしてけりそのまたの年皆人御ふくぬぎてあるはかうふりたまはりなどよるこひけるをきゝてよめる

皆人は花の衣になりぬなり昔の袂よかはきたにせよ

第五 左の詞どもを解釋すべし

(ネ) 上達部うへ人

(ハ) あいなくめをそばめ

(ハ) おりゐのみかど

第六 作文

海

漢文科

第一 凡爲人子者居不主奥坐不中席行不中道立不中門聽於無

聲視於無形不登高不臨深不荷嘗不荷笑

第二 若夫一縷之帛出工女之勤一粒之食出農夫之勞致之不易而用之不節暴殄天物無所顧惜上率下承靡然一軌孰勝其弊哉

歴史科

第一 上古ノ政ハ祭政一致ナリト曰フ其事實如何

第二 三韓ガ帝國ノ管轄ヲ離レタル顛末ヲ記セ

第三 帝國ガ純然タル封建制度トナリタルハ何時頃ノ事ナルヤ

第四 徳川幕府ノ職制ヲ舉ゴ

第五 帝國ガ君主立憲政体トナリタル始末ヲ畧叙セヨ

地理科

- 第一 九州島ノ主要ナル河流ヲ列記スベシ
- 第二 清國ノ産物ニ就キテ主要ナルモノヲ列擧スベシ
- 第三 左記ノ都邑ニ就キテ所在地人口生業等ヲ記スベシ
 丸龜 蘇州 元山 ボンベイ シドニー
 ベルリン メキシコ ケーブタウン マニラ

數學科

- 第一 除法トハ如何ナルモノナルカ
- 第二 $(1416 + 495 + 3219) \times (6714 - 2834)$
- 第三 一哩ハ一六〇九米突三一五ナリ由テ一米突ヲ三尺三寸トシテ
 一哩ヲ我里程ニ改算スベシ
- 第四 一舛楯ハ長幅共ニ四寸九分ニシテ深サハ二寸七分ナリ由テ之

- ヲ同積ノ立方体ノ邊ノ長サヲ求ム
- 第五 一舛ニツキ三十錢ノ酒アリ之ニ清水ヲ割リテ一舛二十五錢ノ
 モノニ作ラントス由テ混合ノ割合ヲ求ム

理科

- 第一 完全ナル花ノ外形ヲ描キテ之ニ各部ノ名稱ヲ付ケヨ
- 第二 動植物ノ呼吸作用ハ如何ナル事カ又之ニ由リテ空氣ニ與フル
 反應ハ如何
- 第三 水銀晴雨計ト水銀寒暖計トヲ比較シテ異同ノ要點ヲアゲヨ
- 第四 酸ト稱スル物及ビ鹽基ト稱スル物ノ通性ヲ説ケヨ
- 第五 左記ノ物ヲ空氣中ニ放置スレバ如何ナル變化ヲ受クヘキカ
 濃硫酸 生石灰 鐵 洗濯ソーダ